

官報

號外

昭和十一年五月二十二日

○第六十九回衆議院議事速記録第十三號

帝國議會

昭和十一年五月二十一日(木曜日)

午後一時十二分開議

議事日程 第十二號

昭和十一年五月二十一日

午後一時開議

第一 昭和十一年勅令第十八號(一定ノ地域ニ戒嚴令中必要ノ規定ヲ適用スルノ件)(承諾ヲ求ムル件)(貴族院送付)

第二 昭和十一年勅令第二十一號(東京陸軍軍法會議ニ關スル件)(承諾ヲ求ムル件)(貴族院送付)

第三 百貨店法案(枅谷寅吉君外七名提出)

第四 百貨店法案(伊禮肇君提出)

第五 小作法案(杉山元治郎君提出)

第六 辯護士法中改正法律案(宮澤清作君外五名提出)

第七 勞働組合法案(塚本重藏君提出)

第八 計理士法中改正法律案(古河和一郎君外二名提出)

第九 母子扶助法案(片山哲君提出)

第十 衆議院議員選舉法中改正法律案(杉山元治郎君提出)

第十一 恩給法中改正法律案(山下谷次君外一名提出)

第十二 市制中改正法律案(坂東幸太郎君外一名提出)

第十三 町村制中改正法律案(坂東幸太郎君外一名提出)

第十四 北海道會法中改正法律案(坂東幸太郎君外一名提出)

第十五 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(坂東幸太郎君外八名提出)

第十六 家事調停法案(宮澤胤勇君外四名提出)

第十七 聖旨奉讀庶政一新ニ關スル法案(町田忠治君外五十名提出)

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス〕

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

府縣制市制町村制改正ニ關スル建議案
提出者 倉成庄八郎君 中村 又一君
佐保 畢雄君

刑務所看守待遇改善ニ關スル建議案
提出者 松本次一郎君

川之江阿波池田間鐵道敷設速成ニ關スル建議案
提出者 河上 哲太郎君 山村豐次郎君
紅露 昭君 砂田 重政君
大本貞太郎君 生田 和平君

豫後備役將校團費國庫補助ニ關スル建議案
提出者 升田 憲元君 伊藤東一郎君
加藤 賢司君

阿蘇國立公園地域ニ高千穂ヲ編入ニ關スル建議案
提出者 田尻藤四郎君 三善 信房君

湯前杉安間鐵道敷設速成ニ關スル建議案
提出者 田尻藤四郎君 三善 信房君

漲水港及石垣港修築促進ニ關スル建議案
提出者 漢那 憲和君 盛島 明長君
花城 永渡君 伊禮 肇君
仲井間宗一君

北海道興業株式會社設立ニ關スル建議案
提出者 手代木隆吉君 一柳仲次郎君
澤田 利吉君 淺川 浩君
坂東幸太郎君 大島 寅吉君
岡田 春夫君 深澤 吉平君
南雲 正朔君

山手線改良工事速成ニ關スル建議案
提出者 太田信治郎君 中村 梅吉君
越中島線速成ニ關スル建議案
提出者 太田信治郎君 眞鍋 儀十君
森 兼道君

中國四國間鐵道聯絡航路開始ニ關スル建議案
提出者 松田喜三郎君 武知 勇記君
古田喜三太君 尾崎 重美君

關稅法中改正ニ關スル建議案
提出者 中村 又一君 眞鍋 儀十君

農村改善ニ關スル建議案
提出者 重要産業振興ニ關スル建議案
提出者 渡邊玉三郎君 加藤 鯛一君

新潟港ヲ第一種重要港灣ニ編入ニ關スル建議案
提出者 小柳 牧衛君 山本悌二郎君
松井 郡治君 松本 弘君

新潟港ニ家畜檢疫所設置ニ關スル建議案

提出者

小柳 牧衛君 山本悌二郎君

松井 郡治君 松木 弘君

農村計畫及耕地政策確立ニ關スル建議案

提出者 伊東 岩男君

道府縣立公園根本方策確立ニ關スル建議案

提出者

河上 哲太君 大本貞太郎君

櫻井奥津間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 松尾 四郎君

沼田日光間國營自動車運轉ニ關スル建議案

提出者

生方 大吉君 青木 精一君

岡田喜久治君

利根川治水根本對策ニ關スル建議案

提出者

飯塚春太郎君 中井川 浩君

渡邊 鏡藏君 橋本 祐幸君

原 玉重君 駒井 重治君

長野 高一君 小坂 梅吉君

眞鍋 儀十君 太田信治郎君

森 兼道君 斯波 貞吉君

伊藤武七郎君 伊藤 正君

松永 東君 鈴木康太郎君

高橋 守平君 山森 利一君

清水留三郎君 生方 大吉君

木槍三四郎君 最上 政三君

篠原 陸朗君 池田 清秋君

土屋清三郎君 中崎 俊秀君

豐田 豐吉君 高田 耘平君

山本 条吉君 大門 恒作君

岡田喜久治君 高松 長三君

木村 淺七君 立川 太郎君

森下 國雄君 安藤 正純君

鳩山 一郎君 本多貞次郎君

牧野 賤男君 今井 健彦君

川島正次郎君 小高長三郎君

吉植 庄亮君 山崎 猛君

宮古啓三郎君 高橋 泰雄君

佐藤洋之助君 石坂 養平君

宮崎 一君 中島知久平君

出井 兵吉君 船田 中君

篠原 義政君 松村 光三君

坪山 德彌君 山口 久吉君

青木 精一君 石井 三郎君

綾川 武治君 飯見 章君

飯村 五郎君 安部 磯雄君

野中 徹也君 麻生 久君

淺沼稻次郎君 田川大吉郎君

鈴木 文治君

帝國議會圖書館並議員事務室完備ニ關スル建議案

提出者

小泉又次郎君 小山 松壽君

太田信治郎君 武知 勇記君

田島勝太郎君 松田竹千代君

小山邦太郎君 手代木隆吉君

青木 亮貫君 比佐 昌平君

一宮房治郎君 加藤 鯛一君

工藤 鐵男君 八並 武治君

松村 謙三君 木槍三四郎君

櫻内 幸雄君 齋藤 隆夫君

一松 定吉君 永井柳太郎君

今井 健彦君 山崎 猛君

東 武君 西方 利馬君

石坂 豐一君 牧野 良三君

岩本 武助君 宮澤 裕君

河上 哲太君 清瀨規矩雄君

西岡竹次郎君 安藤 正純君

堀切善兵衛君 大口 喜六君

森田 政義君 生田 和平君

金光 庸夫君 東郷 實君

松野 鶴平君 畔田 明君

笠井 重治君 三浦 虎雄君

木村 武雄君 北 勝太郎君

井阪 豐光君 青木 精一君

飯村 五郎君 春名 成章君

永山 忠則君 山口 久吉君

龜井貫一郎君 片山 哲君

淺沼稻次郎君 風見 章君

由谷 義治君 伊禮 肇君

野中 徹也君 清瀨 一郎君

假議事堂趾記念施設ニ關スル建議案

提出者

小泉又次郎君 小山 松壽君

太田信治郎君 武知 勇記君

田島勝太郎君 松田竹千代君

小山邦太郎君 手代木隆吉君

青木 亮貫君 比佐 昌平君

一宮房治郎君 加藤 鯛一君

工藤 鐵男君 八並 武治君

松村 謙三君 木槍三四郎君

櫻内 幸雄君 齋藤 隆夫君

一松 定吉君 永井柳太郎君

今井 健彦君 山崎 猛君

東 武君 西方 利馬君

石坂 豐一君 牧野 良三君

岩本 武助君 宮澤 裕君

河上 哲太君 清瀨規矩雄君

西岡竹次郎君 安藤 正純君

堀切善兵衛君 大口 喜六君

森田 政義君 生田 和平君

金光 庸夫君 東郷 實君

松野 鶴平君 畔田 明君

笠井 重治君 三浦 虎雄君

木村 武雄君 北 勝太郎君

井阪 豐光君 青木 精一君

飯村 五郎君 春名 成章君

永山 忠則君 山口 久吉君

龜井貫一郎君 片山 哲君

淺沼稻次郎君 風見 章君

由谷 義治君 伊禮 肇君

野中 徹也君 清瀨 一郎君

名古屋太田間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者

瀨川 嘉助君 土倉 宗明君

唐津港ヲ第二種重要港灣ニ指定ニ關スル建議案

提出者 藤生安太郎君

對馬島振興ニ關スル建議案

提出者

西岡竹次郎君 佐保 畢雄君

倉成庄八郎君

長崎漁港修築ニ關スル建議案

提出者

倉成庄八郎君 佐保 畢雄君

西岡竹次郎君

長崎中央電信局設置ニ關スル建議案

提出者

倉成庄八郎君 佐保 畢雄君

西岡竹次郎君

長崎市ニ水産専門學校設置ニ關スル建議案

提出者

倉成庄八郎君 佐保 畢雄君

西岡竹次郎君

喜々津浦上間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者

倉成庄八郎君 佐保 畢雄君

西岡竹次郎君

長崎市ニ鐵道運輸事務所及保線事務所新設ニ關スル建議案

提出者

倉成庄八郎君 佐保 畢雄君

西岡竹次郎君

長崎鐵道ホテル建設ニ關スル建議案

提出者

倉成庄八郎君 佐保 畢雄君

西岡竹次郎君

飛行場設置ニ關スル建議案

提出者

倉成庄八郎君 佐保 畢雄君

西岡竹次郎君

長崎藥學専門學校設置ニ關スル建議案

提出者

倉成庄八郎君 佐保 畢雄君

西岡竹次郎君

長崎市ヲ起點トスル彼杵半島一周國營自動車運輸ニ關スル建議案

提出者

倉成庄八郎君 佐保 畢雄君

西岡竹次郎君

上海長崎間航路改善ニ關スル建議案

提出者

倉成庄八郎君 佐保 畢雄君

西岡竹次郎君

長崎佐世保間府縣道ヲ軍事用ノ國道ニ編入ニ關スル建議案

提出者

倉成庄八郎君 佐保 畢雄君

西岡竹次郎君

國際競馬場設置ニ關スル建議案

提出者

倉成庄八郎君 佐保 畢雄君

西岡竹次郎君

人造絹織物ニ對シ織物消費稅免除ニ關スル建議案

提出者

倉成庄八郎君 佐保 畢雄君

西岡竹次郎君

オコック海沿岸ニ水陸航空隊設置ニ關スル建議案

提出者

東條 貞君

冷害凶作罹災民ニ對シ食料米貸付ニ關スル建議案

提出者

東條 貞君

乳製品統制ニ關スル建議案

提出者

東條 貞君

新宮若櫻間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者

東條 貞君

小畑虎之助君 田中 武雄君

提出者

清瀬 一郎君 古河和一郎君

田中 武雄君 小畑虎之助君

結核牛撲殺處分手當最高金額改正ニ關スル建議案

提出者

高橋熊次郎君 三善 信房君

高橋熊次郎君

深澤豐太郎君

畜産組合法改正ニ關スル建議案

提出者

高橋熊次郎君 三善 信房君

深澤豐太郎君

畜牛結核病豫防法改正ニ關スル建議案

提出者

高橋熊次郎君 三善 信房君

深澤豐太郎君

甜菜糖業工場設置ニ關スル建議案

提出者

澤田 利吉君

甲府身延清水間國營自動車運輸ニ關スル建議案

提出者

笠井 重治君

北海道興業株式會社設立ニ關スル建議案

提出者

渡邊 泰邦君 北 勝太郎君

長崎本線ノ複線及長崎門司間鐵道電化ニ關スル建議案

提出者

倉成庄八郎君 佐保 畢雄君

東北地方ニ國立癩療養所設置ニ關スル建議案

提出者

菊池 良一君 工藤 鐵男君

癩患受刑者收容ノ專用刑務所設置ニ關スル建議案

提出者

菊池 良一君 工藤 鐵男君

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

東京陸軍軍法會議ニ關スル質問主意書

全國購買組合聯合會ノ賣藥取扱禁止ニ關スル質問主意書

提出者

江藤源九郎君

全國購買組合聯合會ノ賣藥取扱禁止ニ關スル質問主意書

提出者

中村 梅吉君

提出者

(以上五月十九日提出)

華族制度改正ニ關スル質問主意書

提出者 松本次一郎君
(以上五月二十日提出)

一 去十九日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

東北興業株式會社法案
東北振興電力株式會社法案
鐵道敷設法中改正法律案

岩手輕便鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道及兼業ニ屬スル資産買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

江當軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案
商工組合中央金庫法案

一 去十九日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ左ノ通變更セリ

- 四〇 畑 桃作君
- 四二 上塚 司君
- 四三 春日 俊文君
- 一四二 倉成庄八郎君
- 一四六 岩元榮次郎君
- 一四七 吉植 庄亮君

一 去十九日常任委員補選ノ結果左ノ如シ

豫算委員 清水徳太郎君 (松田喜三郎君補闕)

第二部選出 古河和一郎君 (小笠原八十美君補闕)

第六部選出

決算委員 小林 三郎君 (池崎忠孝君補闕)

一 去十八日辭任シタル常任委員左ノ如シ
第二部選出豫算委員 松田喜三郎君
一 去十九日特別委員理事補選ノ結果左ノ如シ

不穩文書等取締法案(政府提出)委員
理事 小山倉之助君 (理事小柳牧衛君
去十八日委員辭任ニ付其ノ補闕)

一 去十九日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ
大正九年法律第五十六號中改正法律案 (手代木隆吉君外八名提出)外二件委員

- 一 柳仲次郎君 堀内 良平君
- 大島 寅吉君 手代木隆吉君
- 南雲 正朔君 森下 國雄君
- 中村 梅吉君 眞鍋 勝君
- 岡田伊太郎君 東條 貞君
- 登坂 良作君 勝又 春一君
- 佐々木家壽治君 尾崎 天風君
- 藤井 達二君 北 勝太郎君
- 井阪 豐光君 川村保太郎君

一 去十九日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
不穩文書等取締法案(政府提出)委員

辭任 一宮房治郎君 補闕飯塚春太郎君
辭任原 夫次郎君 補闕川橋豐治郎君
辭任 鶴澤 宇八君 補闕渡邊 鏡藏君
辭任 松田 正一君 補闕服部 英明君

辭任 川橋豐治郎君 補闕松田 正一君
臺灣拓殖株式會社法案(政府提出)外一件委員

辭任 中村 又一君 補闕中川 重春君
大正十二年法律第五十二號中改正法律案(政府提出)委員

辭任 西岡竹次郎君 補闕松本 弘君
辭任 森 兼道君 補闕中村 梅吉君
辭任 一松 定吉君 補闕本多眞喜雄君
朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出)委員

辭任 岡田 春夫君 補闕信太儀右衛門君
土地質賃價格改訂法案(政府提出)委員

辭任 高田 耘平君 補闕村上 國吉君
昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)委員

辭任 駒井 重次君 補闕眞鍋 勝君
一 昨二十日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

産繭處理統制法案
蠶絲業組合法中改正法律案
蠶絲業法中改正法律案

一 昨二十日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

大正九年法律第五十六號中改正法律案 (北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件) (手代木隆吉君外八名提出)外二件委員

委員長 岡田伊太郎君

理事

一 柳仲次郎君 手代木隆吉君
東條 貞君

一 昨二十日特別委員理事補選ノ結果左ノ如シ
昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)委員

理事 眞鍋 勝君 (理事駒井重次君
去十九日委員辭任ニ付其ノ補闕)

朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出)委員
理事 松尾 四郎君 (理事喜多壯一郎
君昨二十日委員辭任ニ付其ノ補闕)

一 昨二十日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出)委員

辭任 喜多壯一郎君 補闕小山 谷藏君
航路統制法案(政府提出)委員

辭任 船田 中君 補闕永田 良吉君
大正十二年法律第五十二號中改正法律案(政府提出)委員

辭任 中村 梅吉君 補闕野田文一郎君
土地質賃價格改訂法案(政府提出)委員

辭任 植村嘉三郎君 補闕林 平馬君
辭任 瀨川 嘉助君 補闕助川啓四郎君
辭任 西川 貞一君 補闕小山 亮君

不穩文書等取締法案(政府提出)委員
辭任 飯塚春太郎君 補闕一宮房治郎君

○議長(富田幸次郎君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、御諮リ致シマス、昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案、臺灣拓殖株式會社法案外一件、朝鮮事業公債法中改正法律案、大正十二年法律第五十二號中改正法律案、不穩文書等取締法案、及び大正九年法律第五十六號中改正法律案ノ各委員長ヨリ、本日本會議中委員會ヲ開キタイトノ申出ガアリマシタ、之ヲ許可スルニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認めテ許可スルニ決シマシタ

○松永東君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第十七ヲ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレシコトヲ望ミマス

〔贊成々々ノ聲起ル〕
○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認めマス——政府ハ此日程變更ニ同意セラレマシタ、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、日程第十七、聖旨奉體庶政一新ニ關スル決議案、之ヲ議題ト致シマス、提出者ノ趣旨聲明ヲ許シマス——提出者町田忠治君

第十七 聖旨奉體庶政一新ニ關スル決議案(町田忠治君外五十名提出)
聖旨奉體庶政一新ニ關スル決議案

聖旨奉體庶政一新ニ關スル決議案
衆議院ハ優渥ナル 聖旨ヲ奉體シ時局ノ重大ナルニ顧ミ自肅自強議會ノ機能ヲ發揮シテ憲政ヲ擁護シ政府ヲ督勵シテ庶政ヲ釐革セシメ以テ民心ヲ安定シ國運ヲ恢弘セムコトヲ期ス
右決議ス

〔町田忠治君登壇〕
○町田忠治君 私ハ只今上程セラレマシタル聖旨奉體庶政一新ニ關スル決議案ノ趣旨ヲ説明致シマス、去ル四日第六十九回帝國議會ノ開院ニ當リマシテ、車駕親臨優渥ナル勅語ヲ賜ヒ、特ニ朝野和協、文武一致、力ヲ國運ノ進暢ニ效サムコトヲ期セヨト垂示シ賜ウタルコトハ、本院一同ノ感激ニ堪ヘザル所デアリマシテ(拍手)吾々ハ謹ミテ聖旨ヲ奉體シ、自肅自強、議會ノ機能ヲ發揮シテ民意ヲ暢達シ、能ク立憲政治ヲ擁護シテ國運ノ恢弘ヲ期シ、以テ聖明ニ酬ヘ奉ルコトヲ誓フ次第デアリマス(拍手)

諸君、皇紀二千六百年ノ長キ間ニハ、幾多ノ變遷推移ガアリマス、隨テ國歩艱難ノ時代ヲモ閱シ來タノデアリマスガ、其國難ニ會フ毎ニ常ニ之ヲ克服致シテ、國威ヲ宣揚シ來タコトハ、全ク御稜威ノ然ラシムル所デアアルコトハ勿論デアリマスガ、又萬古不易ノ國體ノ下ニ涵養セラレタル、國民ノ精神力ニモ依ルモノト存ジマス(拍手)思フニ今日ノ内外ノ時局ハ極メテ重大デアリマシテ、國運消長ノ懸ル所デアリマス、併ナガラ我國ノ文化ノ進歩、國力ノ發達ハ、決シ

テ列國ニ遜ルモノデアリマセヌ、殊ニ千古渝ラザル國民精神ハ、我が民族ノ間ニ澎湃シテ、世界ニ光被シツ、アルノデアリマス、故ニ舉國心ヲ協セテ時艱ノ克服ニ邁進致シマスレバ、必ズ一層國運ヲ進展シテ、躍進日本ノ眞面目ヲ發揮スルコト、決シテ難キニアラズト確信致シマス(拍手)

此重大ナル時機ニ方リマシテ、今次東京ニ事變ヲ生ジ、長クモ宸襟ヲ惱マシ奉タコトハ、國民ノ齊シク恐懼措ク能ハザル所デアリマス(拍手)爾來軍部ハ銳意肅軍ニ努力シ、誓ッテ建軍ノ本義ヲ明カニセントシツ、アルコトハ、吾々ノ満足スル所デアリマス(拍手)速ニ肅軍ノ目的ヲ達成シテ上宸襟ヲ安ンジ奉リ、下人心ヲ安定センコトヲ熱望致シマス(拍手)而シテ文武其職分ニ恪循シ、君國ノ爲メ心ヲ一ニシテ奉公ノ誠ヲ效シマスレバ、國力ノ充實、國運ノ進展、即チ期シテ待ツベキデアリマス(拍手)本院モ亦自肅自強、國民ノ儀表トナリ、憲政ノ光輝ヲ發揚スルニ努ムルコトハ勿論デアリマス(拍手)

思フニ明治維新以來既ニ七十年ノ星霜ヲ閱シマシテ、文物制度、或ハ舊慣ニ泥ミ、或ハ情弊ニ流レ、現代ノ國民生活ニ適應セザルモノ決シテ少クハナイノデアリマス(拍手)國民ヲ代表スル本院ハ、此時ニ方ッテ審カニ國內百弊ノ淵源ヲ究メテ、時代ノ推移ヲ明ニ致シ、具サニ精神、物質兩方面ニ互ル國民ノ全生活ヲ檢討致シテ、其福祉ヲ増進スベキ使命ヲ痛感スル者デアリマス、而シテ是ガ爲ニハ政府ヲ督勵鞭撻致シテ、

庶政一新ノ國策ヲ樹立實行セシメネバ相成リマセヌ
若シ現内閣ニシテ徒ニ其信念ヲ聲明スルニ止マリ、内外ノ經綸政策ノ見ルベキモノナク、庶政一新ヲ要望スル時代ノ大ナル流れニ棹シテ、時局ヲ收拾シ、國運ノ進展ヲ圖ルノ氣魄果斷ヲ缺クガ如キコトアラバ、本決議ノ趣旨ト全ク相容レザルモノデアリマシテ(拍手)政府ノ責任極メテ重大デアリマス、政府ハ速ニ内外ノ對策ヲ講ジマシテ、本決議ノ趣旨ニ副ヘンコトヲ要望致シマス、之ヲ以テ本決議案提出ノ理由ノ説明ト致シマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 此際總理大臣ヨリ發言ヲ求メラレマシタ、之ヲ許可致シマス——廣田内閣總理大臣

〔國務大臣廣田弘毅君登壇〕
○國務大臣(廣田弘毅君) 只今御説明ニ相成リマシタル決議案ノ御趣旨ハ、政府ニ於キマシテモ御同感デアリマス、政府ハ諸君ト共ニ協心戮力庶政一新ニ邁進センコトヲ期スル次第デアリマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 採決致シマス、本案ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔贊成者起立〕
〔立クナイノハ誰カ「小山ダナ」立テト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 起立大多數、仍テ本案ハ可決セラレマシタ
〔拍手起ル〕

○議長(富田幸次郎君) 日程第一及び第二ハ便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第一、昭和十一年勅令第十八號、承諾ヲ求ムル件、日程第二、昭和十一年勅令第二十一號、承諾ヲ求ムル件、右兩件ヲ一括シテ議題ト致シマス——陸軍大臣寺内壽一君

第一 昭和十一年勅令第十八號(一定ノ地域ニ戒嚴令中必要ノ規定ヲ適用スルノ件)(承諾ヲ求ムル件)(貴族院送付)

第二 昭和十一年勅令第二十一號(東京陸軍軍法會議ニ關スル件)(承諾ヲ求ムル件)(貴族院送付)

昭和十一年勅令第十八號

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ一定ノ地域ニ戒嚴令中必要ノ規定ヲ適用スルノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十一年二月二十七日

内閣總理大臣臨時代理

内務大臣 後藤 文夫

内務大臣 後藤 文夫

海軍大臣 男爵大角 岑生

外務大臣 廣田 弘毅

司法大臣 小原 直
商工大臣 町田 忠治
農林大臣 山崎達之輔
鐵道大臣 内田 信也
拓務大臣 伯爵兒玉 秀雄
陸軍大臣 川島 義之
遞信大臣 望月 圭介
文部大臣 川崎 卓吉
勅令第十八號
一定ノ地域ヲ限リ別ニ勅令ノ定ムル所ニ依リ戒嚴令中必要ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年勅令第二十一號

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ東京陸軍軍法會議ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十一年三月四日

内閣總理大臣 岡田 啓介

内務大臣 後藤 文夫

海軍大臣 男爵大角 岑生

外務大臣 廣田 弘毅

司法大臣 小原 直

商工大臣兼 町田 忠治

農林大臣 山崎達之輔

鐵道大臣 内田 信也

拓務大臣 伯爵兒玉 秀雄

陸軍大臣 川島 義之
遞信大臣 望月 圭介
文部大臣 川崎 卓吉
勅令第二十一號

第一條 東京ニ東京陸軍軍法會議ヲ設ク
第二條 東京陸軍軍法會議ハ陸軍大臣ヲ以テ長官トス
第三條 東京陸軍軍法會議ハ陸軍軍法會議法第一條乃至第三條ニ記載スル者ノ犯シタル昭和十一年二月二十六日事件ニ關スル被告事件ニ付管轄權ヲ有ス

第四條 師團軍法會議ノ長官ハ捜査ノ報告ヲ受ケタル前條ノ被告事件ヲ東京陸軍軍法會議ノ長官ニ移送スベシ
前項ノ規定ニ依リ東京陸軍軍法會議ノ長官事件ノ移送ヲ受ケタルトキハ捜査ノ報告アリタルモノト看做シ處分スベシ

第五條 東京陸軍軍法會議ハ陸軍軍法會議法第一條乃至第三條ニ記載スル者以外ノ者ガ同法第一條乃至第三條ニ記載スル者ト共ニ昭和十一年二月二十六日事件ニ於テ犯シタル罪ニ付裁判權ヲ行フコトヲ得

第六條 東京陸軍軍法會議ハ陸軍軍法會議法ノ適用ニ付テハ之ヲ特設軍法會議ト看做ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(國務大臣伯爵寺内壽一君登壇)

○國務大臣(伯爵寺内壽一君) 昭和十一年勅令第十八號ノ承諾ヲ求ムル爲メ提出致シマシタ理由ヲ申述ベマス、昭和十一年二月二十六日事件ニ因リマシテ、一定ノ地域ニ戒嚴令中必要ノ規定ヲ適用スル緊急ノ必要ヲ生ジマシタガ故ニ、帝國憲法第八條第一項ニ依リ本勅令ハ公布セラレマシタ、併シ本勅令ハ將來尙ホ其效力ヲ有セシムル必要ガアリマスルノデ、帝國憲法第八條第二項ノ命ズル所ニ從ヒ、帝國議會ノ承諾ヲ求ムル爲メ茲ニ之ヲ提出スル次第デアリマス、何卒本案ニ對シ協贊ヲ與ヘラレシコトヲ希望致シマス(拍手)

昭和十一年勅令第二十一號ノ承諾ヲ求ムル爲メ提出致シマスル理由、昭和十一年二月二十六日事件ニ付キ、其全般ニ互ツテ統一シ、速ニ捜査並ニ豫審ヲ終了シテ、事件ノ審判ヲ最モ迅速ニ終結セシムルノ、軍内外ノ安寧ヲ保持スル爲ニ緊急ノ必要ヲ生ジマシタルガ故ニ、帝國憲法第八條第一項ニ依リ本勅令ハ公布セラレマシタ、併シ本勅令ハ將來尙ホ其效力ヲ有セシムル必要ガアリマスルノデ、帝國議會ノ承諾ヲ求ムル爲メ、茲ニ之ヲ提出スル次第デアリマス、何卒本案ニ對シ協贊ヲ與ヘラレシコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許可致シマス——木村正義君

〔木村正義君登壇〕

○木村正義君 私ハ只今議題ト相成リマシタ昭和十一年勅令第十八號、及ビ勅令第二十一號ノ承諾ヲ求ムル件ニ付キマシテ、此際政府當局ニ御尋ヲ致シタイト思ヒマス、現内閣ハ未曾有ノ不祥事件デアリマシタル二・二六事件ノ後ヲ承ケテ、其善後措置ニ付キマシテ、當局ノ最善ト考ヘラレル所ノ努力ヲ傾注セラレテ居ルコトニ付キマシテハ、國民ノ齊シク認ムル所デアリマス、併ナガラ事件發生以來既ニ三箇月ニ垂ントスル今日ニ於キマシテ、今尙ホ治安ノ状態ガ平常ニ復セズ、帝都ノ一部ニ戒嚴令ガ施行セラレテ居リマシテ

上宸襟ヲ安ンジ奉ルコトガ出來ナイト云フコトハ、私共ノ最モ恐懼ニ堪ヘナイ所デアリマス、ソコデ勅令第十八號及ビ第二十一號ノ諾否ヲ決スルニ當リマシテ、此際二三ノ事ヲ政府當局ニ御伺致シテ置ク次第デアリマス

第一ノ點ハ、只今寺内陸軍大臣ハ、本勅令ハ將來尙ホ其效力ヲ有セシムル必要アルニ依ッテ、帝國議會ノ承諾ヲ求ムルト云フコトデアリマスガ、將來尙ホ其效力ヲ有セシムル必要アリト、當局ガ認メラル、所ハ如何ナル點デアルカ、今少シク詳細ナル御説明ガ欲シイノデアリマス、申ス迄モナク、本勅令ニ依ル戒嚴ガ、治安維持上非常ナル變態的、例外的措置タルコトハ申ス迄モアリマセズ、即チ本勅令ニ依リマシテ、地方行政事務、司法事務ノ軍事ニ關係スル事件

ハ、戒嚴司令官ノ管掌ノ權ニ委セララル、コトトナリ、又憲法ニ依ッテ保障致サレマシタル所ノ臣民ノ權利ノ一部ガ、之ニ依ッテ制限ヲ受クルコトト相成リマス、謂ハ、憲法政治ノ一部ガ停止セラレルコトデアリマスカラ、極メテ是ハ重大ナル事デアリマス、隨テ本勅令尙ホ存續セシムルト云フコトニ付キマシテハ、其存續ノ理由ニ付テ、十分國民ノ納得スル理由ガ存在致サナクテハナラスト思ヒマス、是ガ私ガ第一ニ陸軍大臣ニ、將來尙ホ其效力ヲ有セシムル必要ト云フコトニ付テ、當局ノ御考ノアル所ヲ御伺致シタイトデアリマス

第二ハ、本件ニ議會ガ承諾ヲ與ヘマシテ、本勅令ガ完全ニ法律ト同一ノ效力ヲ生ジマシタ曉ニ於テ、速カラズ——恐ラク議會閉會後間モナク、私ハ戒嚴ガ解除セラル、コトト存ズルノデアリマスルガ、其戒嚴ノ解除ニ關シテ、私ハ二ツノ方法ガアルト思ヒマス、其二ツノ方法ニ付テ、法令上如何ナル取扱ヲ爲サレルカト云フコトニ付テ御伺ヲ致シタイトデアリマス、第一ノ戒嚴解除ノ方法ハ、本勅令ニ基イテ、即チ此勅令第十八號ニ基イテ發セラレマシタル所ノ勅令第十九號、即チ東京市ニ戒嚴令中ノ第九條ト第十四條ヲ適用スルノ勅令デアリマスルガ、此第十八號ニ基イテ發セラレタル所ノ、第十九號ヲ廢止スルコトニ依ッテモ戒嚴ノ解除ガ出來マス、第二ノ方法ハ、此第十八號ノ勅令其モノヲ廢スルコトニ依ッテ、戒嚴ノ解除ガ出來得ルノデアリマス、第一ノ方

法ヲ採リマス、勅令ノ第十八號ノ緊急勅令ハ、依然トシテ殘ッテ居ルノデアリマスカラ、政府ハ必要ト認ムル時ニハ、普通ノ勅令ヲ一本出シテ、樞密院ノ諮詢ヲ經ズシテ、直チニ現在ノヤウナ戒嚴令下ニ國民ヲ置クコトガ出來得ルノデアリマス、只今承諾ヲ求メテ居ラレマスル所ノ、此第十八號ヲ廢止致シマスナラバ、將來必要ノアル時、議會閉會ノ場合ニ於キマシテハ、更ニ第二ノ緊急勅令ヲ出サナクテハナラスト云フコトニナル、政府ハ果シテ何レノ方法ヲ執ラントスルカ、即チ緊急勅令ノ第十八號ハ其儘ニ殘シテ置イテ、サウシテ必要ノアル時ニハ、何時デモ戒嚴ノ状態ニ國民ヲ置キ得ル所ノ、此第十九號ガ廢止スル、サウ云フ措置ニ出ラレルノカ、或ハ根本的ニ此第十八號ヲ廢止セラル、モノデアアルカドウカト云フコトヲ、此際御伺ヲ致シテ置キタイト思ヒマス、私ノ考ニ依リマスレバ、此根本デアアル第十八號ヲ廢止スベキモノト思ヒマス、第十九號ヲ廢止シテ戒嚴ノ解除ヲ爲スベキモノデアナイト思ヒマスガ、此點ニ付テ政府ハ如何ナル方法ヲ執ラレルノデアルカ、此事ハ法制ニ關スル問題デアリマサルカラ、内閣總理大臣又ハ内閣法制局長官ニ於テ御答アランコトヲ希望致シマス

第三ノ問題ハ、勅令第二十一號ノ東京陸軍軍法會議ニ關スル件デアリマスルガ、此東京陸軍軍法會議ガ二・二六事件ノ統一ヲ圖リ、速ニ捜査及ビ豫審ヲ終了シテ、又迅速ニ其審判ヲ終結セシメタイ、斯ウ云フ趣

デ發布セラレテ居ルト云フコトハ言フ迄モナイコトデアリマスルガ、只今陸軍大臣ノ御説明ニ依リマスルト、將來尙ホ其效力ヲ有セシムル必要ガアルト云フコトデアアルガ、然ラバ此事件ノ進行ノ程度ニ付キマシテ、今少シク詳細ナル御説明アランコトヲ切望致スノデアリマス、以上三點ニ付キマシテ政府當局ノ御答辯アランコトヲ希望致シマス(拍手)

〔國務大臣伯爵寺内壽一君登壇〕

○國務大臣(伯爵寺内壽一君) 只今ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、戒嚴令ノ效力ハ尙ホ繼續セシメナケレバナラスト云フコトノ必要ニ付キマシテハ、過般私ガ此席上ニ於テ、秘密會ノ際ニ戒嚴ノ見透シト云フコトニ付キマシテ申述ベマシタコトニ依ッテ御諒承願ヒタイト思ヒマス、次ニ軍法會議ノ進行ノ狀況デゴザイマスガ、是ハ私共ノ豫期シテ居リマスル通りニ順調ニ進行ラシテ居リマス、詳細ニ關シマシテハ、只今申上ゲルコトヲ差控ヘナケレバナラスト思ヒマス(拍手)

〔政府委員次田大三郎君登壇〕

○政府委員(次田大三郎君) 只今ノ御質問ノ第二ノ點ハ、戒嚴解除ノ場合ニ於ケル法手續ニ關スルコトデアリマスルカラ、私ヨリ御答辯ヲ申上ゲマス、現在ノ戒嚴ヲ解除致シマスル場合ニ於テ、若シソレガ議會閉會中デアリマスルナラバ、政府ハ此本年ノ勅令第十八號ヲ廢止スルノ緊急勅令ノ發布ヲ奏請スル考デアリマス、御承知ノ通り

明治三十八年ノ勅令第二百五號竝ニ大正十二年ノ勅令第三百九十八號ハ、一定ノ地域ヲ限リ戒嚴令中必要ナル規定ヲ適用スルコトヲ、普通ノ勅令ニ委任致シマシタ緊急勅令デアリマシテ、其内容ニ於テモ、其形式ニ於テモ、本年ノ此勅令第十八號ト同ジモノデアリマス、而シテ是等ノ勅令ハ、何レモソレノ戒嚴ノ廢止セラレマスル場合ニ、他ノ緊急勅令ヲ以テ廢止セラレテ居リマス、現在ノ戒嚴ヲ解除致シマスル場合ニ、ソレガ議會閉會中デアリマシタラバ、政府ハ此二ツノ先例ニ則リマシテ、本年ノ勅令第十八號ヲ廢止スル別ノ緊急勅令ノ發布ヲ奏請スル考デアリマス、丁度木村君ノ申サレマシタ第二ノ方法ニ依ル考デアリマス、ソレダケ申上ゲテ置キマス(拍手)

〔江藤源九郎君登壇〕

○江藤源九郎君 只今寺内陸軍大臣ヨリ勅令第二十一號ニ付キマシテ御説明ガアリマシタガ、尙ホ私ガ了解スルコトノ出來ナイ二三ノ點ニ付キマシテ、總理大臣及ビ陸軍大臣ニ御尋致シタイノデアリマス、一・二六事件ハ國家社會ニ及ボス影響ガ實ニ甚大デアリマシテ、且ツ本事件ニ關係シテ有罪ト認メラレ起訴セラレタル者ノ中ニハ、軍紀上上官ノ命令ニハ直チニ之ニ服従スベキ絶對的ノ義務ヲ有シテ居リマスル若干名ノ下士官及ビ兵士、其他ニ多數ノ常人ガアルノデアリマス、元來裁判ハ其事件ノ性質ガ重大デアレバアル程、一層慎重ニ行ハレネバナ

ラスコトハ法ノ精神デアアルノデアリマス(拍手)サレバ現行法律ニ於キマシテモ、罪ノ重イ者ニハ、若シ被告人ガ辯護人ヲ選任シナイ時ニハ、官選辯護人ヲ強制的ニ選任致スノデアリマス、サウシナケレバ公判ヲ開クコトガ出來ナイヤウニ規定シテアルノデアリマス、此精神カラ致シマス、二・二六事件ノ如キ重大ナル特異性ヲ有スル大事件ニハ、必ズ辯護人ヲ選任スルコト及ビ上訴スルコトヲ許シ、最モ慎重且ツ嚴肅ニ裁判スルコトガ當然デアリ、又憲政治下ニ於ケル政府ノ義務デアルト信ズルノデアリマス、私ハ斯ノ如クニシテコソ、初メテ將來ノ禍根ヲ免除スル所以デアルト固ク信ジテ疑ハナイノデアリマス(拍手) 然ルニ本勅令第二十一號第六條ニハ「東京陸軍軍法會議ハ陸軍軍法會議法ノ適用ニ付テハ之ヲ特設軍法會議ト看做ス」ト規定サレテ居リマス、而シテ特設軍法會議ニ於テハ、陸軍軍法會議法ノ規定ニ依リマシテ、辯護人ヲ選任スルコトガ出來ズ、又上訴スルコトモ出來ナイノデアリマス、隨ヒマシテ東京軍法會議ニ於テモ、辯護人ヲ選任スルコトモ上訴スルコトモ出來ナイノデアリマス、ソコデ私ハ政府ガ今回ノ重大ナル特異性ヲ有スル大事件ノ裁判ニ對シ、何故ニ辯護人モ附セス、上訴モ許サナイヤウニ勅令ニ規定シタノデアアルカ、此點ニ付テ政府ノ所見ヲ質シタイト思フノデアリマス(拍手)而シテ陸軍軍法會議法ニ依リマスルト、特設

軍法會議ヲ特設スベキ場合ハ、同法第九條第二項以下ニ次ノヤウニ明記サレテアリマス「軍軍法會議、獨立師團軍法會議、獨立混成旅團軍法會議及兵站軍法會議ハ戰時事變ニ際シ必要ニ因リ之ヲ特設ス、合圍地軍法會議ハ戒嚴ノ宣告アリタルトキ合圍地境ニ之ヲ特設ス、臨時軍法會議ハ戰時事變ニ際シ必要ニ因リ特設又ハ分駐シタル陸軍ノ部隊ニ之ヲ特設ス」以上ノ通りデアリマス、之ヲ按ジマスルニ特設軍法會議ニ於テ、辯護人ヲ選任スルコト及ビ上訴スルコトヲ許サナイ所以ノモノハ、只今朗讀致シマシタ第九條ノ條文ノ示ス通り、軍法會議ガ戰時事變又ハ合圍地境等ニ於テ、兵馬倥傯ノ間ニ設ケラレルモノデアリマスルカラ、斯ノ如キ地ニハ固ヨリ辯護人ヲ得ルコトハ甚ダ困難ノ場合ガ多イノデアリマス、假令辯護人ヲ得ルト致シマシテモ、戰時事變又ハ合圍地境ニテ辯護人ヲ附シ、上訴ヲ許スヤウナ時間ノ餘裕ガナイノミナラズ、法ノ精神ニ從ツテ人權ヲ尊重スルコトヨリモ、ヨリ以上ニ戰時事變又ハ合圍地境ニ於ケル軍本來ノ目的ニ全力ヲ集中スルコトヲ緊要トスル、眞ニ事情已ムヲ得ナイ戰時又ハ事變ノ狀態デアルカラデアリマス、換言致シマスレバ、戰時事變ノ狀況上、假令人權ヲ剝奪スルモ、國家ノ大事ニハ替ヘ難イト云フ理由ニ依ルモノデアリマス、併ナガラ今回ノ事件ノ場合ヲ考ヘマスルニ、事件ハ二月二十九日ニ鎮定シタルコトハ當局ノ發表スル所デアリ

マス、而シテ本勅令ハ越エテ三月四日ノ發令デアリマスカラ、戒嚴令ハ布カレテアリマスルガ、事件ハ既ニ鎮定シテ居ルコトハ明瞭ナル事實デアリマス、而モ今回ノ事件ノ公判ハ、全ク平時狀態ニ在ル四月下旬カラ開廷セラレテ居ル模樣デアリマスルカラ、東京陸軍軍法會議ヲ特設軍法會議ト看做シテ、法律ニ依ッテ保障サレテ居ル人民ノ重大ナル權利ヲ剝奪シテ、辯護人ヲ附スルコトモ上訴スルコトモ許サナイコトハ、私ハドウ考ヘテモ解スルコトガ出來ナイ、非立憲行爲デアルト斷ゼザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)而シテ國民ハ只今申シマシタ公判ノ手續ニ付テ揣摩臆測ヲ逞シウシテ居ルノデアリマス、是ハ皇軍ノ威信ノ上カラ甚ダ遺憾ニ存ズルノミナラズ、憲政ノ確立ト云フ點カラ申シマシテモ、人民ノ權利ヲ極端ニ拘束スルコトハ、洵ニ痛嘆ニ堪ヘナイ次第デアリマス(拍手)故ニ國民ノ疑惑ヲ深カラシムル如キコトハ努メテ之ヲ避ケ、正々堂々ト辯護人ヲ附シ、上訴モ許シ、最モ嚴肅ニ裁判セラル、コトガ、特ニ緊要ト信ズルノデアリマス、殊ニ私ガ此主張ヲ爲ス所以ノモノハ、幸徳、難波ノ如キ滔天ノ大逆事件ニ於テサヘモ、法ノ精神ヲ酌ミ、辯護人ヲ附シテ裁判ヲシタノデアアルニモ拘ラズ、何故ニ今回ノ事件ニ限り辯護人ヲ選任ヲ許サナイノデアアルカ、其理由ヲ發見スルコトガ出來ナイカラデアリマス、政府ハ何故ニ二・二六事件ヲ裁判スル爲メ、東京陸軍軍法

會議ヲ特設軍法會議ト看做シ、事情之ヲ許スニモ拘ラズ、法律ニ依リ保障サレタル人民ノ權利ヲ剝奪シテ、辯護人ノ選任及ビ上訴ヲ許サナイヤウニ規定シタノデアアルカ、其理由ヲ詳細明瞭ニ御答辯アラントコトヲ御願致ス次第デアリマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 寺内陸軍大臣

(國務大臣伯爵寺内壽一君登壇)

○國務大臣(伯爵寺内壽一君) 只今ノ御質疑ニ對シテ御答辯ヲ申シマス、政府ハ事件ノ性質上、又諸般ノ政情上、此勅令ニ定メラレタル所ノ東京軍法會議ヲ以テ、此事件ヲ審理スルコトガ最モ適當デアルト考ヘタ次第デゴザイマス(拍手)

○江藤源九郎君 簡單デアリマスカラ、此席ヨリ御許ヲ願ヒマス

○議長(富田幸次郎君) 許可致シマス

○江藤源九郎君 只今ノ寺内陸軍大臣ノ御答辯ニ付キマシテハ、甚ダ不満足デアリマスルガ、詳細ハ委員會ニ於テ御尋ヲ致シタイト思ヒマス、之ヲ以テ質問ヲ打切りマス

○議長(富田幸次郎君) 淺沼稻次郎君

(淺沼稻次郎君登壇)

○淺沼稻次郎君 私ノ質問ハ極ク簡單デアリマス、併シ私共ニ取リマシテハ重大ナ問題デアリマスカラ、政府當局ニ於キマシテハ、誠意ヲ以テ答ヘテ戴キタイト思フノデアリマス、二・二六事件ガ起リマシテ、戒嚴令ガ布カレマシテ以來、人民ノ政治的自由ト云フモノハ殆ド無イノデアリマス(拍手)此帝

國議會ニ致シマシテモ、戒嚴令下ニ開カレテ、戒嚴令下ニ終ラントシテ居ルノデアリマス、此事ハ憲政運用ノ上カラ言フテ、オ互ニ悲シマナケレバナラナイ事實デアルト私ハ思フノデアリマス(拍手)此事ニ付テ私共ハ戒嚴令解除ノ時期ト云フモノニ付テ、陸軍大臣ニ御伺シタイト思フノデアリマス、私共無産階級運動ノ立場カラ、少シク言論集會結社ニ對スル戒嚴令下ニ於ケル取締ノ方法ヲ御話シテ參考ニ供シテ戴キタイト思フノデアリマスルガ、現下ノ戒嚴令下ニ於キマシテハ、私共勞働者農民、謂ハハ無産階級ノ政治的集會ト云フモノハ、全然出來ナイノデアリマス、尙且ツ六十人位ノ程度ナラヤツテモ差支ガナイト云フコトハ言ハレテ居リマスルガ、其集會ノ席上ニ於キマシテハ、一切政治問題ニ對スル討論ハ禁止サレテ居リマス、殆ド私共ハ此戒嚴令下ニ於キマシテ、私共ノ意思決定ヲ爲スコトガ出來ナイヤウナ實情ニ置カレテ居ルノデアリマス、尙且ツ小サナ勞働組合ノ集會、小サナ農民組合ノ集會ト云ツタヤウナモノニ致シマシテモ、殆ド今迄ハ合法的ニ許サレテ居リマシタモノガ、戒嚴令下ニ於キマシテ臨監ガ附ク、殆ド吾々ハ其席上ニ於テ相談スラ出來ナイヤウナ實情ニ置カレテ居ルノデアリマス、此實情ト云フモノハ、唯單ニ私共ノ陣營バカリデハナイト思フノデアリマス、實例ヲ擧ゲテ申上ゲマスナラバ、私共ハ今議會ニ臨マンガ爲ニ、東京ニ於テ

大會ヲ持チタイト云フコトヲ決議シ、之ヲ内務省ト交渉シ、警視廳ト交渉シタノデアリマス、併ナガラソレハ許サレマセヌデンタ、現ニ其席上ニ於ケル議案一切ト云フモノハ抹殺サレテ、讀ムコトハ宜イケレドモ、一切ノ言論ハ中止セラレマシテ、ヤッタラソレ以上ノ事ハモウ禁止、中止デアアル、斯ウ云フヤウナ状態デアリマシテ、非常ニ私共ハ遺憾ニ考ヘタノデス、又全國農民組合ガ、代議士ト農民組合ノ幹部ト一緒ニナツテ、議會對策ヲ協議會ニ於テ議シヨウトシマシタ時ニハ、ヤハリ政治問題ニ觸レルナラバ此集會ト云フモノハ禁止スル、又議會ニ對シテ過日大阪ニ於キマス所ノ勞働者諸君ガ、事ハ小サナ問題デアリマスケレドモ、陳情ニ參リマシタ、陳情ニ參リマシテ居リマス、其儘警視廳ニ於キマシテハ、ソレヲ總檢束ヲ爲シタノデアリマス、是ハ私共ノ實情デアリマス、更ニ是ハ立場ハ異ニシテ居リマスケレドモ、此議會ニ對シテ東京ニ於キマス所ノ米屋ト言ハズ、日本全國ノ米屋諸君ト云フモノハ、何等カノ意思表示ヲシタイト云フ考ヲ持ツテ居ルニハ違ヒナイト思フノデアリマスケレドモ、戒嚴令下ニ於テハソレハ許サレテ居リマセヌ、尙ホ其他種々ノ點ニ於テ、民衆ノ政治的自由ト云フモノハ剝奪サレテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ事ガ續イテ參リマスナラバ、將來ニ對シテ私共ハ一ツノ暗澹タル心持ニナラザルヲ得ナイ、政治ヲ明朗ニシナケレバ本

當ニ世ノ中ハ明朗ニナリマセヌ、而モ私共ガ何カシヨウトスルト、其處ニハ官憲ガ在リ、其處ニハ憲兵ガアルト云フコトニナルト、是ハ本當ノ自由ノ意思ト云フモノハ束縛サレルノデアリマス、サウ云フ點ニ付テ一日モ早く私共ハ此戒嚴令ヲ撤去致シマシテ、日本ノ政治界全體ニ對シテ明朗ナ氣分ヲ喚起スルヤウニシテ戴キタイト考ヘテ居ルノデアリマス、之ニ付キマシテ陸軍大臣ノ所見ヲ承リタイト思フノデアリマス(拍手)ソレカラモウ一ツハ内務省關係デアリマスルガ、是非共内務大臣ノ出席ヲ私ハ願ヒタイト思フノデアリマス、今東京府、神奈川縣ニ於キマシテハ、府縣會議員ノ總選舉ガ行ハレントシテ居リマス、今日ガ丁度其告示デアリマス、而モ東京府ニ於キマシテハ、此選舉ハ戒嚴令下ニ開ハナケレバナラヌト云フ現狀デアリマス、甚ダ民衆ノ言論ガ抑壓サレ、民衆ノ政治的自由ガ抑壓サレテ居ル場合ニ於テ、選舉ガ行ハレント云フコトハ、實ニ遺憾ナコトデ、私共ハ果シテ之ニ依ツテ選舉ノ公平ガ期セラレルカドウカ、内務省當局ニ伺ヒタイトデアリマス(拍手)

モウ一ツハ今度ノ議會ヲ通ジテ可ナリ政治的自由ノ要求カラ出發ヲ致シマシテ、民衆ノ人權蹂躪怪シカラヌト云フ聲ガ漲ッテ居リマス、聞ク所ニ依リマスルト云フト、内務當局ニ於キマシテハ、此人權蹂躪ノ聲ニ怯エテ、今度行ハレマスル所ノ選舉ニ對

シテ、幾分カ緩和スルト云フヤウナコトヲ私共聞クノデアリマスガ、果シテ取締ヲ緩和スルヤウナ考ヲ持テ居ラレルカドウカ、一ツ承シテ置キタイト思フノデアリマス、以上三點ニ付テ伺ヒタイト思ヒマス(拍手)

〔國務大臣伯爵寺内壽一君登壇〕

○國務大臣(伯爵寺内壽一君) 御答ヲ致シマス、戒嚴令ヲ尙ホ續行シナケレバナラスト云フコトハ、私共モ洵ニ遺憾ニ存ジテ居リマス、ケレドモ洵ニ已ムヲ得ナイ事情ガアルト云フコトヲ、御諒承ヲ願ヒタイトノデアリマス、尙ホ此戒嚴令ノ適用ニ付キマシテハ、十分御意思ノアル所ヲ諒承致シテ居リマスルノデ、此適用ニ付キマシテハ、誤ラヌヤウニ運用シタイト考ヘテ居リマス、尙ホ府會議員ノ選舉ノコトニ付テ御質問ガゴザイマシタガ、此選舉ニハ差支ナイヤウニ戒嚴令ノ適用ガ行ハル、ヤウニ、戒嚴司令官カラ處置致シタ次第デアリマス(拍手)

〔内務大臣ハ〕ト呼フ者アリ
○議長(富田幸次郎君) 今内務省ノ政府委員ガ一人モ居リマセヌ、督促中デアリマシガ、マダ出席シテ居リマセヌ——數回督促シテ居リマシガ、大臣初メ政府委員一人モ出席アリマセヌ

○淺沼稻次郎君 ソレデハソレニ對スル御答ニ對スル質問ハ留保致シマス、只今陸軍大臣ノ答辯ニ對シテ簡單デアリマスルカラ自席カラ御許ヲ願ヒマス

○議長(富田幸次郎君) 許シマス

○淺沼稻次郎君 是ハ敢テ陸軍大臣バカリハナイ、政府當局全體ニ向ッテ私共ノ希望ヲ述ベテ置キタイト思フノデアリマス、政府ハ戒嚴令ガ撤廢サレルヤウニ御努力ヲ願ヒタリ、彈壓ト云ツヤウナ一切ノ者ニ對シテハ、私共ニハ感ジラレルノ傾向ガアルヤウニ、私共ニハ感ジラレルノデアリマス、非常ニ之ヲ通ジテ考ヘラレルノデアリマス、サウ云フコトノナイヤウニ、尙且ツ政治ヲ明朗ニスル爲ニ、一日モ早く戒嚴令ガ撤廢サレルヤウニ御努力ヲ願ヒタイト云フコトヲ申上ゲマシテ、私ノ質問ヲ打切リマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 石坂繁君

〔石坂繁君登壇〕

○石坂繁君 私ハ只今御上程ニ相成ッテ居リマス勅令第二十一號ノ事後承諾案ニ付キマシテ、斯クノ如キ内容ノ勅令ヲ尙ホ今後存續サセナケレバナライ其理由ニ付テ、私共ノ了解スルコトノ出來ナイ點ヲ、總理大臣及ビ陸軍大臣ニ御伺致シタイトノデアリマス(諄イ)ト呼フ者アリ)先程カラ私ハ數人ノ質問者ト當局トノ間ノ質疑應答ヲ拜聽シテ居ッタノデアリマスルガ、尙ホ政府ガ言ハレル如クニ、此緊急勅令ヲ將來存續セナケレバナライ理由ヲ了解スルコトガ出來ナイノデアリマス、隨ヒマシテ只今下ナタカカラ言ハレマシタ如クニ、或ハ諄イカモ知レマセヌケレドモ、諄イカラト云ウテ輕重ナル問題デアアル、(拍手)緊急勅令ノ如

キハ、是ハ通常ノ法律ノ變態的ノ存在デアリマス、苟モ慎重審議ヲシテ法律ノ定メタ所ノモノヲ以テ、緊急勅令ヲ發布スルト云フヤウナ事ニ付テハ、其事後ニ於テ極メテ冷靜ニ、極メテ沈著ニ之ヲ檢討スルニアラザレバ、國民ノ代表者デアアル所ノ帝國議會ガ、或ハ將來ニ於テ千恨萬悔スルガ如キ事ナカランコトヲ惧レル故ニ、私共敢テ政府當局ニ向ッテ重ネテ御伺ヲ致サントスル所ノ者デアリマス

私ノ御伺致シマス内容ハ、先程江藤君ヨリノ御質問ノ要旨ト大體ニ於テ相似タル所ガアルノデアリマスルガ、不幸ニシテ、江藤君ノ質問ニ對スル所ノ寺内陸軍大臣ノ御答辯ハ、問ニ對シテ問ヲ以テ答ヘラレタニ過ギナイ感ジラ持タザルヲ得ナイノデアアル、何ガ故ニ斯ノ如キ勅令ヲ將來ニ向ッテ存續セナケレバナライカト云フ、其理由ヲ細ヤカニ御説明ヲ求メテ居ルノニモ拘ラズ、寺内陸軍大臣ハ頗ル短簡ニ、斯ウ云フ勅令ノ下ニ軍法會議ヲ進行スルコトガ適當デアアルガ故ニヤツテ居ルト言ハレタニ過ギナイノデアアル、何ガ故ニ適當デアアルカト云フコトヲ私ハ御伺致シタイトノデアリマス

私ノ質問ノ第一ハ只今總理大臣ガ御見えニナツテ居リマセヌカラ、是ハ法制局關係ノドナタカノ答辯デモ宜シイノデアリマスルガ、勅令第二十一號ノ第五條ト、憲法第二十四條トノ關係デアリマス、勅令第五條ヲ

拜見致シテ見マスルト、此東京陸軍軍法會議ニ依ッテ裁判ヲ受ケル人達ハ、軍人及ビ第五條謂フ所ノ第一條乃至第三條ニ記載スルモノ以外ノ者ガ、此陸軍軍法會議ニ依ッテ審理ヲ受ケルコトニ相成ッテ云ルノデアリマス、御承知ノ如クニ陸軍軍法會議法ノ規定スル所ニ依リマスルト云フト、陸軍軍法會議ニハ五人ノ判士ガ出來ルコトニナツテ居ルノデアリマス、而シテ其五人ノ判士ノ中ニ、一人ハ裁判官タル法務官デアアルノデアリマスルガ、他ノ四人ハ被告人ノ階級ニ依ッテ判士ノ階級ノ相違ハアルノデアリマ

スルケレドモ、現役ノ陸軍將校ヲ以テ充テラレル規定ニ相成ッテ居リマスルコトハ、陸軍軍法會議法第三十二條及ビ第四十九條ノ明示スル所デアアルノデアリマス、問題ハ此點ニ伏在致シテ居ルト考ヘマス、即チ憲法第二十四條ノ規定スル所ニ依リマスルト云フト「日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、コトナシ」ト云フコトハ、極メテ重大ナル人權上ノ保障デアアルノデアリマス、而シテ勅令第五條ノ定ムル所ハ、此憲法第二十四條ニ依ッテ保障サレタル普通人ノ裁判ヲ受ケル所ノ權限ヲ、此緊急勅令第五條ニ依ッテ奪去ツタモノデアアル、隨テ此勅令ニ對シテ事後承諾ヲ與ヘル上ニ於テハ、私共ハドウシテモ此第五條ト、憲法第二十四條トノ關係ヲ明確ニシ、私共ノ十分ナル諒解ヲ得ルニアラザレバ、此勅令ニ對シテ承諾ヲ與ヘルコトハ出

來ナイノデアル、此點ニ付テ當局ノ御所信ノアル所ヲ御伺致シタイノデアリマス、御承知ノ如ク往年本議場ニ於テ陪審制度ノコトガ問題ニナリ、貴族院ニ於キマシテハ、日本ニ陪審裁判ヲ設ケルト云フコトガ憲法違反ナリトシテ、痛烈ナル論議ノアツタコトハ御承知ノ通りデアリマス、而シテ現行ノ我國ノ陪審制度ニ於テハ、裁判官ハ陪審員ノ答申ニ拘束サル、コトナシト云フ陪審制度ニ相成ツテ居ルノデアツテ、斯ノ如クシテ我國ノ陪審制度ハ憲法違反ナリト云フ論議ヲ除去ツタノデアル、陪審制度ニ於テ既ニ然リ、此勅令第五條ハ、憲法ニ依ツテ保障サレタル國民ノ極メテ重大ナル權利ヲ、果シテ緊急勅令ヲ以テ奪去ルコトガ出來ルデアラウカドウデアラウカト云フ、人權上極メテ重大ナル問題ヲ含ンデ居ル所ノ緊急勅令デアルノデアリマス、眼前ニ起ツタ所ノ異常ナル問題ノ爲ニ、斯ノ如キ重大ナル問題ヲ、輕々ニ論ジ去ルコトハ出來ナイト考ヘマスルガ故ニ、當局ノ此點ニ關スル眞面目ナル御答辯ヲ御伺致シタイノデアリマス

第二八、二・二六事件ノ被告ノ人達カラ辯護權ヲ剝奪スルコトガ、果シテ適當デアラカドウカト云フ問題デアル、此點ニ付キマシテハ、先程江藤君ヨリ詳細ニ論ゼラレタ通りデアリマス、陸軍軍法會議法ノ第八條、第九條ノ規定ニ依リマシテ、特設ノ陸軍軍法會議ト云フモノハ、陸軍軍法會議法ガ限定シテ規定致シテ居ルノデアリマス、而シテ特設軍法會議ヲ設ケテ趣旨ハ、江藤君所論ノ如ク戰時若クハ事變ニ際シマシテ、事極メテ火急デアアル、人權ノ擁護ト云フヨリモ、軍本來ノ目的ノ爲ニハ、軍ノ行動ヲ一刻モ猶豫スルコトノ出來ナイト云フヤウナ場所ニ差掛ツタ時ニ、特別ノ規定ニ依ツテ、陸軍軍法會議法ハ軍ノ本來ノ使命カラ致シマシテ、左様ナル場合ガ往々起ルコトヲ想像致シマシテ、特設軍法會議ノ規定ヲ設ケテ居ルノデアリマスルケレドモ、斯ノ如キ異例ハ、斯ノ如キ特別ナル裁判ハ、嚴格ニ是ハ考ヘナケレバナラヌノデアアル、故ニ陸軍軍法會議法立法ノ趣旨ヲ按ジマスルニ、第八條、第九條ト云フガ如キハ、其特別ノ場合ヲ成ベク少クスルト云フ立法ノ趣旨ニ外ナラヌト考ヘルノデアリマス、而シテ今次ノ事變ニ對シマシテハ、師團軍法會議ノ公判ニ付スルヲ以テモ、尙ホ目的ヲ達スルコトガ出來ルノデハナイカ、私共ハ特設軍法會議ノ性質ガ非公開デアアル、一審制度デアアル、而シテ辯護人ヲ付ケナイト云フコトニ相成ツテ居ルノデアリマスルガ、特設軍法會議ノ此三ツノ特色ハ、江藤君ノ論ゼラレマシタ如キ事情ヨリ、立法セラレタノデアルト考ヘルノデアリマス、然ルニ今次ノ事變ハ、事件終了後數箇月ヲ閱シテ居ル今日、尙ホ此特設軍法會議ヲ存續シテ、此被告人ノ人達ヨリ、自分ノ人權ニ對スル重大ナル辯護權ト云フモノヲ剝奪スルコトハ、頗ル不條理デハナイカト云フ感ジヲ持

タザルヲ得ナイノデアリマス、我國ノ刑事裁判ニ於キマシテハ、刑事訴訟法三百三十四條ニ依ツテ、死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニ付テハ、辯護人ヲ附ケナケレバナラス、而シテ被告人ニシテ辯護人ヲ附ケナイカ、或ハ辯護人ガ出頭シナカッタ場合ニ於テハ、所謂官選辯護人ヲ附ケナケレバ裁判ノ進行ガ出來ナイト云フ程、人權ハ擁護セラレテ居ルノデアリマス、而シテ軍ノ裁判デアリマス所ノ陸軍軍法會議法ハ、大正十年四月二十六日法律第八十五號ヲ以テ改正サレ、其三百六十七條ハ刑事訴訟法三百三十四條ト全ク同一ノ規定ガ設ケラレテ、是ハ陸軍裁判史上ニ一大「エポック」ヲ作ツタ所ノ、重大ナル刑法ノ改正デアツタノデアリマス、此改正ノ結果ハ陸軍軍法會議ニ於テモ、辯護人ヲ附スルト云フ制度ニ相成ツタノデアアル、斯様ニ致シマシテ、私共ハ陸軍ノ軍法會議法ノ改正ヲ非常ニ喜ンデ居ツタノデアリマスルガ、今度ノ事件ニ付テ尙ホ此特設ノ軍法會議、極メテ限定スベキ特設ノ軍法會議ヲ以テ、處理セント致シテ居ラレルノデアリマス、勿論色々ト承リマシテ、寺内陸軍大臣ガ陸軍大臣就任以來、肅軍ト云フ極メテ重大ナル問題ノ爲ニ、銳意努力致シテ居ラレマスル其誠意ハ、先般モ私ハ申上ゲタノデアリマスルガ、十分ニ之ヲ諒承致スノデアリマス、而モ今次ノ二・二六事件ノ被告ノ人達ハ、苟モ天皇親率ノ軍隊ヲ率キテ其本務ニ悖リ、戎器

ヲ以テ陛下ノ重臣ノ多數ヲ害ヒ、帝都ノ治安ヲ攪亂致シマシタ、許スベカラザル叛亂行爲ヲ敢テシタノデアアル、其行動ノ惡ムベキハ陸相ト私共感ヲ同ジウスル者デアリマスルガ、併ナガラ其動機ニ付テハ、尙ホ私共多分ニ反省シナケレバナラナイ事ガアルノデアリマス、陸相ノ説明ニ依リマスルト、國體ヲ顯揚シテ彼等ノ所謂昭和維新ヲ遂行セント企テ、居ツタト云フコトデアアル、而シテ彼等ヲシテ驅ツテ此ニ至ラシメマシタ所ノ國家ノ現狀ハ、大イニ是正刷新ヲ要スルモノ多ク存在スルモノアリト陸相ハ明言サレタノデアアルガ、全ク其通りデアアル、斯様ニ考ヘテ參リマスルト、私共ハ此被告人ノ達ノ心情ニ對シマシテハ、一片同情ノ念禁ズルコトノ出來ナイモノガアルノデアリマス、其許スベカラザル行爲ハ斷ジテ許スコトノ出來ナイノデアリマスルケレドモ、其此ニ至ツタ所ノ經過、誤ツテ事此ニ至ツタノデアリマスルケレドモ、其動機ヲ參酌シ、國家ノ現狀ヲ考ヘ、議會政治ノ現狀ヲ稽ヘル時ニ、庶政一新ト云フヤウナ大眼目ノ前ニハ、私共ハ此人達ノ行動ニ依リテ、非常ニ反省セナケレバナラナイ大キナル示唆ヲ受ケルノデアアル、若シ此示唆ヲ受ケナイト云フナラバ、其政治家ノ良心ヲ吾々ハ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス（拍手）斯様ニ考ヘテ見マスルト、其行爲ハ許スベカラザル惡逆行爲一片惘然タラザルヲ得ナイノデアアル「鳥ノ

將ニ死セントスル、其鳴クヤ哀シ、人ノ將ニ死セントスル其言ヤ善シト云フ言葉ガアルガ(簡單々々)ト呼フ者アリ)此裁判ニ於テ、彼等ノ立場カラ、彼等ハ何故斯ノ如クナツカト云フ其心情ニ付テ、一言辯護人ヲ立テ、辯護スルト云フコトガ、是ハ武士ノ情デナケレバナライト私ハ考ヘルノデアリマス、勿論軍ノ機密ニ屬シ、公安ヲ害スルト云フ立前ナラバ、非公開トスルコトモ宜カラウ、辯護人ヲ附ケルト云フト公判ガ長引クト云フヤウナコトデアルナラバ、陸軍軍法會議法ノ辯護人ハ陸軍大臣ノ指定セラレタモノデアリ、而モ同一ノ被告人ニ對シテ二人ト限定サレテ居ルカラ、其邊ハ法律問題デナシニ、適當ニ處理スルコトガ出來ルデアラウト考ヘルノデアリマス、斯様ナ趣旨カラ致シマシテ、私ハ此事件ニ對シマシテモ辯護人ヲ附ケナケレバナラス、何故辯護人ヲ附ケナイカト云フ其根據ニ付テ、陸軍大臣ノ御所論ヲ重ネテ御伺致シタインデアリマス

〔國務大臣伯爵寺内壽一君登壇〕

○國務大臣(伯爵寺内壽一君) 只今私ニ御尋ノコトハ、先程江藤君ニ御答シタコトト同様ト、御心得ヲ願ヒマス

〔政府委員次田大三郎君登壇〕

○政府委員(次田大三郎君) 只今ノ御質問ノ第一點ハ、特設軍法會議ヲ設ケタコトガ憲法第二十四條ニ違反スルデハナイカト云フ御質問デアリマシタ、憲法第二十四條ハ

「日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、コトナシ」ト規定セラレテ居リマス、是ハ日本國民ガ法律ニ依ツテ構成設置セラル、裁判官ニ依リ、裁判セラル、コトヲ求メ得ルコト及ビ其他ノ者ノ裁判ヲ受ケザルベキコトヲ定メタモノデアリマス、裁判官ノ構成設置ガ法律ニ依ツテ規定セラレ、裁判スベキ者ガ法律ニ於テ裁判スベキ者トシテ規定セラレテ居ルモノデアリ、而シテ此勅令第二十一號ハ法律ニ代ルベキ勅令、法律ト同様ノ效力ヲ有ツベキ勅令デアリマスルカラシテ、之ヲ以テ東京軍法會議ヲ設置シタルコトハ、憲法第二十四條ニ違反シナイモノト考ヘテ居リマス(拍手)御質問ノ第二ノ點ニ付キマシテハ、陸軍大臣カラ御説明ガアリマシタガ、陸軍軍法會議法第九條ハ、法律ト同一ノ效力ノアル緊急勅令ヲ以テ特設軍法會議ヲ設置スルコトヲ禁止シタモノニアラズト解釋致シテ居リマス

○石坂繁君 簡單デアリマスカラ、自席カラノ發言ヲ御許ヲ願ヒマス

○議長(富田幸次郎君) 許可致シマス

○石坂繁君 只今ノ私ノ質問ニ對スル答辯ハ、第一ノ質問ハ主トシテ法律問題デアリマス、第二ノ問題ニ對シマシテハ寺内陸軍大臣ハ前言ヲ繰返サレルダケデアアル、兩者トモ此席上ニ於テ重ネテ質問應答ヲ繰返スコトハ避ケマシテ、他ノ機會ニ於テ尙ホ詳

細ニ意見ヲ披瀝シテ、質問致シタイト考ヘテ居リマス、是デ打切りリマス

○議長(富田幸次郎君) 前田幸作君

〔前田幸作君登壇〕

○前田幸作君 二・二六事件ノ重大ナルコトハ茲ニ申スマデモゴザイマセス、今回ノ特別議會ハ其爾後ノ策トシテ召集ヲ受ケタト申シマシテモ、敢テ過言デナイト存ズルノデゴザイマス、其内容ニ付キマシテハ同僚先輩諸賢ヨリ、既ニ質疑應答ヲシ盡サレタノデゴザイマスガ、唯一箇所、分ケテ申シマスナラバ二點、國民ガ承服シ兼ネル所ガ未ダ尋ネラレテ居ラナイノデゴザイマス、或ハ本員ノ聽洩ラシカモ存ジマセスガ、更ニ此點ヲ御尋シテ置キタイト思フノデゴザイマス、即チ政府ハ今期ノ議會ニ於キマシテ、秘密保護ノ法律案、或ハ不穩文書取締法案等ヲ提出ヲ致シマシテ、再ビ二・二六事件ノ如キコトノ失態ナカランコトヲ期スルコトノ、一ツノ策デアルト斯様ニ聲明シテ居ラレマス、蓋シ御尤ノコトト存ジマス、併シナガラ茲ニサウシタコトヲ縦ノ線ヨリ行ハント致シマスナラバ、先ヅ横ノ線ヨリモ之ニ併合シテ庶政一新ガ必要デアルノデゴザイマス、然ルニ一方デハ不穩文書取締法ト云フモノヲ以テ、殆ド言論ノ抑壓ト申シマシテモ然ル程ニ、之ヲ實行セントスル意思ヲ示シテ置キナガラ、既ニ出版法ニ依リマシテ發行シテ居ル文書、而モ二・二六事件ノ内容ヲ公開致シマシタ文書ヲ、國

民ガ手ニ致シマシタ時ニ、甚ダ奇怪極マルコトガ、往々ニシテ見受ケラレマスガ、斯ウシタ方面コソ現在ノ法律ヲ以テ取締リ、或ハ指導致シマシタナラバ、恐ラク不穩文書ナドノ法律ノ御提案ヲ見ル必要モナイモノカト存ズルノデアリマス、具體的ニ申シマスナラバ、街々ニ販賣致シテ居リマス本——朗讀スルコトハ差控ヘマスガ、其内容ニ依リマス、彼ノ二・二六事件ノ爲ニ、當時襲撃ヲ受ケマシタ前内閣總理大臣岡田氏ハ、死ト傳ヘラレテ居リマシタ、後日ニ於テ生キタト言ツテ居ルノデアアル、此活殺自在ノ前首相ノコトヲバ、外國ノ諸新聞ハ新「アラビアンナイト」デアルト、斯様ニ報ジテ居リマス、洵ニ我國ト致シマシテモ、此岡田前首相ノ態度コソハ洵ニ遺憾デアルト存ズルノデアリマス、而モ其文章ノ一節ニ依リマス、首相ハ押入ノ隅ニ隠レテ、下女某ノ握飯ヲ貰ツテ居ルト云フコトデアリマス、サウシタコトハ何故真相ヲ御發表ニナラナイカ、之ヲ統一シテ而シテ國民ガ此事件ハ左様デアツタカト云フ、肯定ヲシ得ルコトヲ御發表ニナルナラバ、敢テ不穩文書ナドモ出ナイノデアリマスガ、此點ヲ千載ノ後マデモ、之ヲ永遠ノ疑問トシテ封ジ置カレルノデアルカ、此答辯ノ有無ニ拘ラズ、國民ノ一人ガ岡田事件ニ付テ其真相ヲ求めテ已マナイ者ガアルト云フコトダケヲバ、ハッキリト申上ゲテ置クノデゴザイマス

更ニ御尋ヲ致シマスガ、戒嚴司令部二月

二十九日午前八時五十五分發表ノ所謂「兵ニ告グ」此内容ニ付テ御尋ヲ致シマス、其ノ中ニ「逆賊トシテ汚名ヲ永久ニ受ケルヤウナコトガアツテハナラナイ、今カラデモ決シテ遅クハナイカラ直チニ抵抗ヲ止メテ軍旗ノ下ニ復歸スルヤウニセヨ、サウシタラ今マデノ罪モ許サレルノデアアル」ト、御尋ハ此處デアリマス、成程私ハ前段ノ質問トシテハ、戒嚴司令官ガフルコトヲバ如何ナル法律ノ根據ヲ以テ御發表ニナル權限ガアルヤ、若シ大命——勅ヲ奉ジテ申シマシタナラバ、無論ソレハ結構デアリマセウ、併ナガラ仄聞致シマスル所ニ依リマスルト、事件ニ關係致シマシタ兵隊ノ中デ、或ハ處罰ニ付セラレタ者アルヤニ仄聞スルノデゴザイマスガ、眞偽ノ程ハ分リマセヌ、若シアリト致シマシタナレバ、今カラデモ遅クナイ、罪ハ赦サレルト云フ其一言ハ、如何ナル程度マデヲ赦サレルノカ、恐ラク上官ノ命ニ依リマシテ事ニ從ヒマシタ者、其程度ニ上下ハナイ筈デアリマス、然ラバ其程度ヲバ承リタイノデアリマス、御答辯ニ依リマシテ再質問ヲ致シマス

〔國務大臣伯爵寺内壽一君登壇〕
○國務大臣(伯爵寺内壽一君) 第一ノ御尋ニ對シテハ私ノ答辯ノ限リデナイト存ジマス、第二ノコトニ付キマシテハ、モウ度々申上ゲタ所デゴザイマスカラ、ドウソ速記録ニ依ッテ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス

○前田幸作君 要點ノミデスカラ此處カラ御發言ヲ御許願ヒマス

○議長(富田幸次郎君) 許可致シマス

○前田幸作君 度々答辯ヲシタト云フ御話デゴザイマスガ、私ノ御尋致シマシタ遅クナイト云フ程度ノ所ハ承ツテ居ラナイヤウデゴザイマスガ、不敏ニ致シマシテ聽漏シタカモ知レマセヌガ、何時ドノ席デ御答辯ニナリマシタカ、御答辯願ヒタイノデアリマス

〔無用々々ト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 政府ニハ答辯ガアリマセヌ——是ニテ質疑ハ結局致シマシタ——各件ノ審査ヲ依託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○松永東君 日程第一及び第二ノ兩件ハ、一括シテ政府提出、大正十二年法律第五十二號中改正法律案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○松永東君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出、關稅定率法中改正法律案、大正十三年法律第二十四

號中改正法律案、昭和七年法律第四號中改正法律案、製鐵業獎勵法中改正法律案、貯蓄銀行法中改正法律案及ビ日本銀行特別融通及損失補償法中改正法律案ノ六案ヲ一括議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、關稅定率法中改正法律案、大正十三年法律第二十四號中改正法律案、昭和七年法律第四號中改正法律案、製鐵業獎勵法中改正法律案、貯蓄銀行法中改正法律案及ビ日本銀行特別融通及損失補償法中改正法律案、右六案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長金光庸夫君

關稅定率法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
大正十三年法律第二十四號中改正法律案(贅澤品等ノ輸入稅ニ關スル件)(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
昭和七年法律第四號中改正法律案(輸入稅ノ從量稅率ニ關スル件)(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
製鐵業獎勵法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

貯蓄銀行法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)
日本銀行特別融通及損失補償法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書
一關稅定率法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十一年五月二十一日
委員長 金光 庸夫
衆議院議長富田幸次郎殿

報告書
一昭和七年法律第四號中改正法律案(輸入稅ノ從量稅率ニ關スル件)(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月二十一日

委員長 金光 庸夫

衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

一製鐵業獎勵法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月二十一日

委員長 金光 庸夫

衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

一貯蓄銀行法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月二十一日

委員長 金光 庸夫

衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

一日本銀行特別融通及損失補償法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月二十一日

委員長 金光 庸夫

衆議院議長富田幸次郎殿

(金光庸夫君登壇)

○金光庸夫君 只今上程ニナリマシタ各案ノ委員會ニ於ケル審議ノ經過竝ニ結果ヲ簡單ニ御報告申上ゲマス、委員會ハ連日ニ互リマシテ國務大臣竝ニ政府委員ニ對シ質疑應答ヲ重ネマシテ、非常ナル熱誠ヲ以テ御審議ニナツタノデアリマス、サウシテ私ガ只今此處ニ登ルマデ、先刻マデ審議ヲ續ケテ漸ク茲ニ議了シタノデアリマス、其第一案ノ關稅定率法中改正法律案ハ、礦油「アルミニウム」帶鐵等十一品ノ稅率改正ヲ爲サントスル案デアリマス、次ノ大正十三年法律第二十四號中改正法律案ハ、此關稅定率法中改正ニ伴ヒマシテ、法文ノ整理の改正ヲ爲サントスル案デアリマス、昭和七年法律第四號中改正法律案モ、大體ニ於テ關稅定率改正ノ結果、法文ノ整理の改正ヲ行ハントスルモノデアリマス、製鐵業獎勵法中改正法律案、是ハ獎勵ノ爲ニ營業稅所得稅ヲ免除シテアリマシタモノヲ、一割以上ノ利益ノアルモノニ付テハ、之ヲ課稅シヨウト云フ趣旨ノ案デアリマス、貯蓄銀行法中改正法律案ハ、貯蓄銀行ノ所有有價證券ノ中ニ、滿洲國有價證券ヲ加ヘタイト云フノデアリマス、日本銀行特別融通及損失補償法中改正法律案、是ハ適用期限ガ十箇年ニナツテ居リマスノヲ、更ニ十箇年延長シテ二十箇年ニシタイト云フ案デアリマス、質疑應答ノ中、主要ナルモノヲ御報告申上ゲタイト存ジマシタガ、ドウカ詳細ハ速記録ニ依ッテ御承知ヲ願ヒタイト存ジマス、其中

一二御報告ヲ申上ゲマス、製鐵業獎勵法中改正法律案ノ質疑中ニ、斯様ナ質疑應答ガゴザイマシタ、追加豫算トシテ日本製鐵株式會社ノ政府持株ニ對シテ、配當一分増ノ約二百八十万圓ガ計上サレテ居ル、鐵國策ノ中心機關トシテ、今後設備ノ改良ノ爲ニ莫大ナル資金ヲ必要トスル特殊會社ニ對シ、監督官廳タル政府當局ニ於テ單ニ財政上ノ收入ヲ補ヘンガ爲ニ、其増配ヲ強要スルガ如キハ、會社ノ活動ヲ減殺スルノ甚シイモノデアツテ、穩當ヲ缺クト謂ハナケレバナリマセスト云フ質問ニ對シマシテ、商工大臣ハ先ヅ七分位ノ程度ナレバ已ムヲ得タイト思フト云フ答辯ガアリマシタ、次ニ砂鐵ニ關スル質疑應答ガゴザイマシタ、製鐵原料ノ不足セル我國ニ於テ、東北、北海道ヲ中心トシテ、相當含有量ノ良好ナル砂鐵礦ガ約一億噸ノ埋藏量ガアルト云ハレテ居ルガ、今日マデ是等ノ砂鐵ガ現在ノ製鐵業ニ利用サレテ居ラレタイト思フガ、當局ハ此砂鐵ノ利用ニ對シテハ如何ナル努力ヲ拂ハレタカ、第二ハ、聞ク所ニ依レバ、東北地方ノ砂鐵礦ハ鑛區稅ノ賦課セラレザルニ乗ジ、二三財閥ノ手ニ獨占セラレテ居ルト云フコトダガ、此事實ハ砂鐵利用ノ爲ニ少カラズ障碍ヲ爲シテ居ルト當局ハ認メラレルカ、若シ是等ノ事實ヲ認ムルトセバ、將來砂鐵礦ニ對シ鑛區稅ヲ賦課シ、又ハ鑛區ニ制限ヲ附スルノ意ハナイカト云フ質問ニ對シテ、斯様ニ答ヘラレタノデアリマス、我

カ内地ニ於テ三五%含有量ノ砂鐵ハ、埋藏量約一億噸位アルコトハ、調査ノ結果明カデアリマス、政府モ其利用ノ必要ナコトヲ認メテ、從來既ニ五十餘萬圓ヲ當業者ノ研究費ニ補助シテ、研究ニ努メマシタケレドモ、未ダ期待セルダケノ結果ヲ得ルニ至ラナイノデアリマス、追々ハ何レモ利用シ得ルニ至ルコトト信ジマス、此上ニモ研究ヲ進メル積リデアリマス、第二ノ問ニ對スル答ハ、砂鐵ノ鑛區ニ課稅スルコトガ、砂鐵利用ノ障碍トナルコトハアリ得ルコトト考ヘラレマスルガ、將來篤ト御質問ノ點ニ關シテハ政究ヲ加ヘ、適當ニ善處スル考デアリマスト云フ答デアリマシタ、次ハ鐵ノ國策ハ鉄鐵一貫作業ヲ目的トシテ居ル、然ルニ現在其半ニモ達シナイ、而シテ需要ハ年平均八分ノ増加ヲ來シ、十年ニシテ倍加スル趨勢デアアルコトハ統計ノ示ス所デアアル、原料輸入ノ現況ハ、屑鐵百七十萬噸、鉄鐵六十萬噸、合計二百三十萬噸デアリマス、此海外拂ハ實ニ一億數千萬圓ニ達シテ居リマス、以上ノ實況ニ依リマスレバ、今後尙ホ日鐵及ビ民間ノ當業者ニ於テ多大ノ増産設備ヲ要スルコトト思ヒマス、斯ノ如キ實情デアリマスカラ、國家ハ今日マデ免稅ノ特典ヲ與ヘタモノデアリマス、然ルニ今回歲計ノ辻褄ヲ合ハス爲ニ、僅ニ二百万圓ノ徵稅ヲ爲スガ如キハ、本國策ノ根本ヲ破壞スルモノデアリマセスカ、時局ニ鑑ミテ、石油、航空機及ビ鐵ハ三大重工業デ

アリマシテ、就中鐵ハ國防上竝ニ一般産業ニ重大ナル關係ヲ有スル根幹トナル工業デアリマスカラ、國家ハ特ニ此工業ニ免稅シタ所以デアリマス、之ニ對スル政府ノ所見ハ如何ト云フ質問デゴザイマシタ、ソレニ對シテ陸海軍大臣ノ答辯ハ、倉元君ノ質問ニ對シテハ尤ト思フ、政府ハ鉄鐵一貫作業ニ依リ、製鐵ノ目的ヲ是非達成スルコトガ國防上必要ト認メ、何處マデモ自給自足ノ目的ヲ達スベク努力致シマス、仍テ關係主務省トモ慎重ニ協議ヲ重ネツ、アルト云フ答辯デアリマシタ、商工大臣、大藏大臣ハ、大體陸海軍ト同様ノ答辯ガアッタノデアリマス、其他ハ速記録ニ依ツテ御諒承ヲ願ヒマス、ソレヨリ討論採決ニ入りマシテ、全會一致ヲ以テマシテ各案トモ、原案ノ通り可決確定致シマシタ、此段御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 六案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ六案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○松永東君 直チニ六案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ六案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

關稅定率法中改正法律案

第二讀會(確定議)

大正十三年法律第二十四號中改正法律案(贅澤品等ノ輸入稅ニ關スル件)

第二讀會(確定議)

昭和七年法律第四號中改正法律案(輸入稅ノ從量稅率ニ關スル件)

第二讀會(確定議)

製鐵業獎勵法中改正法律案

第二讀會(確定議)

貯蓄銀行法中改正法律案

第二讀會(確定議)

日本銀行特別融通及損失補償法中改正法律案

第二讀會(確定議)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、六案共委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○松永東君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際昭和九年度第一豫備金支出ノ件、昭和九年度特別會計第一豫備金支出ノ件、昭和九年度特別會計豫備費支出ノ件、昭和九年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件、自昭和十年四月至同年十二月昭和十年度第二豫備金支出ノ件、自昭和十年四月至同年十二月昭和十年度特別會計第二豫備金支出ノ件、自昭和十年四月至同年十二月昭和十年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算

外支出ノ件、右各案ヲ議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、昭和九年度第一豫備金支出ノ件外六件、承諾ヲ求ムル件ヲ一括シテ議題ト致シマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長金光庸夫君

昭和九年度第一豫備金支出ノ件

昭和九年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和九年度特別會計豫備費支出ノ件

昭和九年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件

自昭和十年四月至同年十二月昭和十年度第二豫備金支出ノ件

自昭和十年四月至同年十二月昭和十年度特別會計第二豫備金支出ノ件

自昭和十年四月至同年十二月昭和十年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算外支出ノ件

承諾ヲ求ムル件(委員長報告)

報告書

一昭和九年度第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月二十一日

委員長 金光 庸夫

衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

一昭和九年度特別會計第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月二十一日

委員長 金光 庸夫

衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

一昭和九年度特別會計豫備費支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月二十一日

委員長 金光 庸夫

衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

一昭和九年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議決致候此段及報告候也

決致候此段及報告候也

昭和十一年五月二十一日

委員長 金光 庸夫

衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

一自昭和十年四月 昭和十年年度第二豫備金 一至同 年十二月 昭和十年年度特別會計第 支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議 決致候此段及報告候也

昭和十一年五月二十一日

委員長 金光 庸夫

衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

一自昭和十年四月 昭和十年年度特別會計第 一至同 年十二月 昭和十年年度特別會計第 二豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議 決致候此段及報告候也

昭和十一年五月二十一日

委員長 金光 庸夫

衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

一自昭和十年四月 昭和十年年度特別會計豫 備金外ニ於テ豫算外支出ノ件(承諾ヲ 求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議 決致候此段及報告候也

昭和十一年五月二十一日

委員長 金光 庸夫

衆議院議長富田幸次郎殿

(金光庸夫君登壇)

○金光庸夫君 只今上程ニナリマシタ七案 ノ委員會ニ於ケル經過竝ニ結果ヲ御報告申 上ゲマス委員會ハ慎重審議ノ結果、何レモ 承諾スベシト決定致シマシタ、此段御報告 申上ゲマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 昭和九年度第一豫 備金支出ノ件外六件ハ、承諾ヲ與フルコト ニ御異議アリマセスカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ マス、仍テ七件共承諾ヲ與フルニ決シマシ タ(拍手)

○松永東君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提 出致シマス、即チ此際政府提出、大正十二 年法律第五十二號中改正法律案及ビ思想犯 保護觀察法案ノ二案ヲ一括議題ト爲シ、委 員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコ トヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御 異議アリマセスカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ マス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、大正 十二年法律第五十二號中改正法律案、思想 犯保護觀察法案、右兩案ヲ一括シテ第一讀

會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマ ス——委員長岩崎幸治郎君

大正十二年法律第五十二號中改正法律 案(司法官試補及辯護士ノ資格ニ關ス ル件)(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告) 思想犯保護觀察法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 大正十二年法律第五十二號中改正法律 案(司法官試補及辯護士ノ資格ニ關ス ル件)(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致 候此段及報告候也

昭和十一年五月二十一日

委員長 岩崎幸治郎

衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

一 思想犯保護觀察法案(政府提出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致 候此段及報告候也

昭和十一年五月二十一日

委員長 岩崎幸治郎

衆議院議長富田幸次郎殿

附帶決議

一 政府ハ保護觀察審査會ガ本法第一條 及第五條ノ決議ヲ爲スニ當リテハ慎重

ナル態度ヲ執リ苟モ怨嗟ノ聲ヲ聞クガ 如キコトナキヤウ努力スベシ

一 政府ハ第十一條ノ費用徴收ニ當リテ ハ十分本人又ハ扶養義務者ノ資産状態 ヲ考慮シ苛酷ノ取扱ヲ爲サザルヤウ注 意スベシ

(岩崎幸治郎君登壇)

○岩崎幸治郎君 只今議題ト相成リマシタ 委員會ノ經過及ビ結果ヲ御報告申上ゲマス、 法律第五十二號中ノ改正案ニ付キマシテハ、 滿場一致可決スルコトニ致シマシタ、固ヨ リ此改正案ハ新辯護士法ニ於キマシテ、辯 護士試補ト云フ制度ヲ設置致サレタ結果ニ 基ク改正案デアリマシテ、誰人モ異議ノナ イ所デアッタノデアリマス、採決ノ結果ハ全 員一致之ヲ可決致シマシタ、次ニ思想犯保 護觀察法案デゴザイマスルガ、此思想犯保 護觀察法案ノ質問ヲ見マスルノニ、先ヅ本案 其自體ニ對スル質問ト、而シテ此思想犯ナ ルモノハ、大體ニ於テ其原因ハ種々アルケ レドモ、併ナガラ官憲ノ壓迫ト云フコトガ、 固ヨリ大ナル原因ヲ成スト云フ所ニ因ミマ シテ、人權ノ蹂躪、拷問、或ハ裁判ニ於ケ ル所ノ勾留ノ重キコト、信實、接見等ニ付 テノ種々ナル制限ガ、年々非常ニ數多クナツ テ居ルコト等ガ問題トナリマシタ、此點ニ 付キマシテ、私ハ少シク委員會ノ經過ヲ御 紹介申上ゲタイト存ジマス、固ヨリ詳細ニ 互リマシテハ、ドウカ速記録ニ就テ御高覽 ヲ願ヒタイノデアリマス

本案ハ警察ノ干渉ガ多クナツテ、却テ被保護者ガ迷惑スルヤウナコトニナリハシナイカト云フコトガ、此法案ニ對スル所ノ中心ノ問題デゴザイマシタ、之ニ對スル政府ノ答辯ハ、本案ハ思想犯人若クハ思想犯ノ嫌疑アリトシテ起訴スベキ者デアアルニ拘ラズ、起訴猶豫ヲシタ者、或ハ執行猶豫ニナツタ所ノ者、若クハ免囚ノ者ニ對シテ保護ヲ與ヘル考デアツテ、其保護ハ嚴父慈母ノ考デ溫イ感情ヲ以テ之ニ當ルノデアアカラ、斷ジテ左様ナ心配ハナイト云フコトヲ申シテ居ルノデアリマス、續イテ今回ノ衆議院ノ選舉及ビ昨年執行サレタル所ノ府縣會議員ノ選舉等ニ付テ其事跡ヲ見ルノニ、餘リニ官憲ガ自白ヲ尊重シ過ギル、其結果ト致シマシテ、無用ニ人々ヲ、而モ善良ナル國民ヲ警察ニ引致致シテ、其抑留日數ガ數日、多キハ十數日ニ上ルト云フヤウナ結果ヲ見テ居ル、拷問ハ至ラザル所ナク、是ガ爲ニ自殺ヲシタ者モアルト云フヤウナ事柄ハ、何トシテモ默視スルコトハ出來ナイ、特ニ國民ノ思想ニ非常ナル惡影響ヲ及ボスト云フコトガ、中心ノ質疑ト相成ツタノデアリマス、之ニ對スル政府當局ノ答辯ハ、内務省及ビ司法省相共ニ、司法省ハ既ニ調査ニ著手シテ、是ガ善後處置ヲ講ジテ居ル、内務省ハ早速是ガ調査ニ著手シテ、或ハ司法處分ニ付スベキモノハ司法處分ニ付シ、行政處分ニ付スベキモノハ行政處分ニ付シテ、苟モ人權蹂躪ノ跡ナキヤウニ、今後ハ十分ノ努

力ヲスルト云フコトヲ言明致シタノデアリマス、之ニ續キマシテ司法ノ關係ト致シマシテ、檢事ガ餘リニ萬能主義ヲ發揮シ過ギル、或ハ強制處分ノ執行方ト云ヒ、或ハ勾留日數ノ頗ル長期ニ互ルコトト云ヒ、洵ニ遺憾ナル點ガ多クデアツテ、政府提出ノ總テノ材料ニ依リテ之ヲ徵シテ見ルト云フト、年々歳々接見禁止ハ多クナリ、勾留日數ハ殖エテ居ルノデアリマス、元來刑事訴訟法ノ精神ハ、決シテ斯様ナモノデナイノニ、是トテモヤハリ自白ヲ尊重スル結果トシテ、長ク人ヲ抑留シテ、自白ヲ勸誘スルト云フヤウナ形式ニ出テ居ルコトハ以テノ外デアアル、特ニ昨年ノ五月以降、司法大臣ガ訓示シタル所ノモノハ、總テノ我國ニ於ケル矯激ナル思想ハ、立法府タル所ノ、此議院ノ腐敗ニ基クヤウナ言辭ヲ弄シテ、サウシテ選舉界ヲ革正スル爲ニハ、嚴罰ヲ以テ之ニ處セナケレバナラヌト云フコトハ、是ハ何事デアアルカ、斯ウ云フ質問ガ非常ニ目立ツタ質問デゴザイマシタ、固ヨリ司法權ハ獨立、之ヲ尊重シナケレバナラナイノニ、司法部ニ於ケル最高行政官ノ一言一行ニ依ツテ、ソレガ響イテ、サウシテ現在ニ於ケル所ノ此選舉違反ノ判決ト云フモノハ、非常ニ重刑主義ヲ採ツテ居ルト云フヤウナコトハ、本省ニ於ケル訓令ガ裁判所ニ響イテ居ル一ツノ證據デアアル、斯ウ云ウ事柄ニ對シテ司法當局ハ如何ナル感ヲ持ツカト云フコトノ質問ニ對シマシテ、司法大臣ノ答辯セラレタル所ハ、固ヨ

リ判決ハ主觀的ニハ罪狀、客觀的ニハ社會情勢ヲ睚味シテ刑ヲ決メラルベキモノデアアルガ、自分トシテハ固ヨリ之ニ對シテハ何等干渉スベキヤウナコトガアツテハナラナイ、或ハ司法部ノ會合ニ於テ、檢事及ビ裁判所側ノ者ヲ會合シテ訓令ヲスルナドト云フコトニ付テモ、今後ハ相當ノ考慮ノ餘地ガアル、考慮シナケレバナラナイ、苟モ裁判ノ獨立ヲ害スルヤウナコトガアツテハ相成ラナイト云フコトヲ言明致シマシテ、サウシテ此質問ハ大體ニ於テ濟ンデ居ルノデアリマス、詳細ハドウカ速記録ニ依ツテ御覽ヲ願ヒタイノデアリマス、大體斯様ナ質問應答ガゴザイマシテ、採決ニ入りマシテ、本案ニ附帶決議ヲ附シテ贊成セラレマシタ所ノ名川君ノ勸議ガアルノデアリマス

其附帶決議ハ

一 政府ハ保護觀察審査會ガ本法第一條及第五條ノ決議ヲ爲スニ當リテハ慎重ナル態度ヲ執リ苟モ怨嗟ノ聲ヲ聞クガ如キコトナキヤウ努力スベシ

是ガ第一ノ附帶決議デアリマス、第二ノ附帶決議ハ

二 政府ハ第十一條ノ費用徵收ニ當リテハ十分本人又ハ扶養義務者ノ資産状態ヲ考慮シ苛酷ノ取扱ヲ爲サザルヤウ注意スベシ

決議附ニ本案ヲ贊成スルト云フノガ、第一控室ノ加藤勘十君ヲ除キマシテ、全部一致シテ之ニ贊成サレタノデアリマス、サウシテ加藤勘十君ハ本案ニ反對ノ意見ヲ述ベラレタガ、其理由トセラレル所ノ重要ナルモノハ、本案ヲ施行スルト云フコトニナレバ、被保護者ヲ監視スルヤウナ結果ニナル、第二ハ國民ノ自由ヲ制限スルコトノ憂ガアル、第三ハ信書ノ自由ヲ制限スル憂ガアル、第四ハ本案ハ爾ク急ヲ要スベキモノデナイ、斯ウ云フ事ノ理由ニ依リマシテ反對セラレマシタ、此段御報告申上ゲマス

○議長(富田幸次郎君) 先ヅ大正十二年法律第五十二號中改正法律案ヲ審議シ、次ニ思想犯保護觀察法案ノ審議ニ入ルコトト致シマス、是ヨリ大正十二年法律第五十二號中改正法律案ノ審議ニ入りマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○松永東君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ勸議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ

マス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

大正十二年法律第五十二號中改正法律案(司法官候補及辯護士ノ資格ニ關スル件) 第二讀會(確定議)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通リ可決確定致シマシタ(拍手)次ニ思想犯保護觀察法案ノ審議ニ入りマス、討論ノ通告ガアリマス、之ヲ許可致シマス——加藤勘十君

(加藤勘十君登壇)

○加藤勘十君 私ハ只今ノ委員長ノ報告ニ反對スル者デアリマス、私ノ反對ノ要旨ハ、委員長報告ノ中ニ述ベラレタル通りデアリマス、政府ハ本案ガ非常ニ急ヲ要スルモノデアルトノ趣旨ヲ述ベテ居ラレマシテ、其理由トシテハ、社會的情勢ノ變化、竝ニ現在刑務所ニ拘禁サレテ居ル治安維持法違反ノ被告ガ、今後順次ニ出獄シテ、中ニハ政府ノ以テ不逞兇惡ノ思想ヲ懷クト稱スル人々ガ社會ニ出テ來ルト、勢ヒ其宣傳ニ依ッテ恐ルベキ事態ヲ惹起スルニ至ルノデアアルカラシテ、ソレヲ防止シ、是ガ監視ヲ嚴カニシナケレバナラナイ、斯ウ云フコトヲ述ベテ居ラレルノデアリマス、此點ニ對シマシテ私ハ反覆政府當局ニ質問ヲ繰返シマシタ、政府當局ノ此點ニ對スル答辯ハ、答辯ノ言葉ガ重ナレバ重ナル程、急ヲ要セザル

モノデアルト云フコトガ明瞭ニナッタノデアリマス、本法案ヲ立法セラレマシタ當局ノ主觀的ナ觀念ノ中ニハ、急ヲ要スルモノデアルカノ如キ錯覺ヲ御懷キニナッテ居ルヤウデアリマスルケレドモ、客觀的ナ社會相ノ現實ノ現象ハ、政府提出ノ資料ニ依ッテ數字の明瞭ニナッテ居リマスル通り、少シモ急ヲ要シナイノデアリマス、政府ハ頻リニ出獄者ノ恐ルベキコトヲ大聲呼號シテ、委員諸君ヲ寧ロ威スヤウナ態度ヲ執ッテ居ラレマスルガ、現在刑務所ニ拘禁中ノ被告ハ總計五百九名、此中政府ガ非轉向者ト稱シテ居リマスルモノハ二百二十名、二割一分六厘ノ數字デアリマス、是ガ昭和十一年カラ昭和十五年ニ至リマスル、今後五箇年ノ間ニ出獄シテ參リマスル者ノ數、約九割、四百六十八名、此中非轉向者ヲ比率ニ依ッテ見マスレバ百一名、恐ルベキ者ハ、若シアリトスルナラバ、今後五箇年間ニ百一名デアアル、ソレカラ今マデニ出獄シタ者ノ状態ヲ、ヤハリ政府ノ統計ニ依ッテ見マスレバ、昭和二年カラ昭和十年ニ至リマスル八箇年ノ間ニ、再犯起訴セラレタ者ノ數ハ僅ニ十六名デアリマス、八年間ニ十六名、今後五箇年間ニ出テ來ル者ガ、非轉向者ナルモノガ百一名、サウシテ又昭和九年度ノ治安維持法起訴猶豫處分者ノ中デ、起訴サレタ者ノ數ガ七名、轉向者昭和九年度千二百七十一名ノ中、起訴サレタ者二十名——二十名、七名、十六名、百一名、ソレガ政府ノ以テ

恐ルベキ者トスル所ノ實體デアリマス、之ヲ一方ニ於キマシテ、ソレナラバ社會ノ秩序ヲ紊シ、公安ヲ害ヒ、人々ノ生活上ニ實害ヲ齎スベキ所ノ、刑法犯一般ノ状態ハドウデアアルカト云フコトヲ、刑事統計年鑑昭和九年度版ニ依ッテ見マスレバ、刑法一般ノ有罪總人員ハ男女合セテ十二万二千三百三十名、此中再犯以上ノ累犯ヲ重ネマシタ者ガ四万二千六百八十四名、之ヲ刑事統計年鑑分類ニ從ッテ小分類シテ見マスレバ、續職其他ノ事犯ヲ合シタモノガ、有罪總人員男女合セテ六万八千八百八十名、此中再犯以上ノ累犯者ガ一万八千二百八十八名「パーセントージ」ニシテ二七%、殺人、傷害、脅迫、サウシタ犯罪ノ有罪總人員ガ一万九千八百十五名、此中再犯以上ノ累犯ヲ重ネタ者ガ四千六百六十二名「パーセントージ」ニシテ二四%、強盜、竊盜、詐欺、横領、斯ウシタ有罪總人員ハ男女合セテ三万四千二百二十五名、此中再犯以上ノ累犯ヲ重ネタ者ガ一万五千三百二十一名「パーセントージ」ニシテ四五%、此數字ヲ見マスル時ニ、誰モ是等ノ刑法犯一般ノ犯罪者ノ再犯ヲ防止スルコトノ爲ニ、適切ナル社會施設ヲ要スルト云フコトニ異議ヲ持ツ者ハアリマスマイ、是等ノ點ニ對スル質疑ニ對シテハ、目下調査中デアアル、ソレハ經費ガ餘計要ルト云フコトニ依ッテ、曖昧模糊タル答辯デアリマス、サウシテ僅ニ先程讀上ゲタヤウナ思想犯關係者ニ對シテノミ、今取立テ、其急ヲ要スルトシテ提案サ

レマシタト云フコトニ至ッテハ、政府ガドノヤウニ辯明是レ努メヨウトモ、思想犯ヲ一種獨特ナモノトシ、特殊ナモノトシテ特別扱ヒシヨウト云フコトハ、此事實ニ依ッテ明瞭デアリマス、私ハ斯ウシタ事實ヲ見マスル場合ニ、同ジク法ニ觸レタ者ガ法ノ制裁ヲ受ケルコトニ異議ハナイ、ガ併ナガラ、何ガ故ニ思想犯ノミガ特殊ナ取締ノ對象ニナラナケレバナラナイカ、諸君ハ強盜ニ脅カサレルコトヲ以テ満足スルカ、サウ云フ事實ヲ見マスル場合ニ、私ハドウシテモ斯ノ如キ誤ッタル刑事政策概念ニ對シテハ反對セザルヲ得ナイ

第二ニハ、保護ノ名ヲ冠スルト雖モ、事實ハ大臣ノ提案理由ノ説明ノ中ニモアリマシタル通り、監視ヲ嚴カニスルト云フ點カラ見テ、此法律ガ具體的ニ運用サレル場合ニハ、勢ヒ監視取締ニ重點ガ置カレルヤウニナルト云フ虞ハ多分ニ實在シテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ點カラ見マシテ、私ハ皆サンニ御一考ヲ願ヒタイト思フ、吾々ガ子供ノ時カラ頭ノ中ニ染ミ込メ居ル有名ナル「ユーゴー」ノ小説「レ・ミゼラブル」ノ小説ノ主人公「ジャンバルジャン」彼ハ一體ドウシテ恐ルベキ重罪ヲ犯スニ至ッタノデアラウカ、彼ハ食ヘザルガ故ニ麵麩ヲ盜ンダ、ソレガ強盜犯ニ問ハレタ、サウシテ彼ハ臆テ自ラノ罪ヲ悔悟シ、産ヲ作り、社會的地位ヲ築キ、社會ニ復活シヨウトシタ場合ニ、冷ヤカナル法ノ監視ハ、彼ヲシテ

再ビ大キナ罪ヲ犯スニ至ラシメタノデアリマス、本法ノ適用ガ、却テ斯ウシタ保護觀察ノ名ニ依ツテ、多クノ將來社會ニ復活シヨウトスル者ヲ、却テ絶望ノドン底ニ追ヒ落ス危險ガナイト誰ガ斷ジ得ラレルデアラウカ(拍手)第三ニ、私ハ考ヘテ貫ハナケレバナライト思フ、一體議員自ラガ議會ヲ侮辱シテ居ル、何トナラバ、私ハ苟モ國民ノ權利自由ニ關スル立法ニ對シテハ、國民ノ代表トシテ嚴肅ニ是ガ審議ハ取扱ヘレナケレバナラナイニモ拘ラズ、其法律ノ審議ニ當ツテ、其法律ノ實際ノ運用ヲ多クハ勅令ニ委シテ居ル、先日來諸君ノ代表者ハ、先般ノ選舉ニ關スル人權蹂躪ヲ有ユル機會ニ述ベラレタ、私モサウシタ有ユル地方ニ於テ甚シク人權ノ蹂躪サレテ居ル事實ヲ見マシテ、實ニ恐ルベキコトデアルト云フコトヲ痛感シタノデアリマスルガ、一體アノ選舉ニ關スル人權蹂躪ハ何處カラ生レタノデアラウカ、選舉法ノ本章ハ全條文百五十條、之ニ對シ施行令、取締規則、是ガ同ジク百四十九條、法律ノ條章ト勅令ノ條章トガ略、同數デアアル、斯ウ云フコトハ法律ノ規定ヲ實際ニ運用スル所ノ勅令ニ對シ、議會ガ審議ノ權能ヲ持ツテ居ナイト云フ所カラ發シタモノデアルト云フコトヲ、御考ヘ願ハナケレバナラナイノデアリマス、本法ニ對シテモ、本法ハサウシタ國民ノ權利、自由ノ實體ヲ傷ケルモノデナイガ故ニ、勅令ニ委シテモ多クノ間違ハナイト言ハレル方ガアル

カモ知レマセヌガ、同ジク法律ノ精神ノ運用ヲ勅令ニ委セルト云フ點ニ於テ、多クノ弊害ガ生ズルト云フコトニ付テハ、總テノ法律ヲ通ジテ共通デアアル、斯ウ云フ點カラ見マシテ、私ハ先ヅ第一ニ此法律ガ餘リニ其運用ヲ勅令ニ委シ過ギテ居ルト云フ所ニ異議ヲ持ツ者デアリマス、更ニ個人ノ自由ヲ制限シ、信書ノ自由ヲ制限スルト云フコトニナツテ居ルノデアリマスルガ、今日國民ノ憲法ニ依ツテ規定セラレタ正當ナ權利ハ、色々ナル法律ノ名目ニ依ツテ有ルカ無キカノ状態ニ奪去ラレテ居ル(拍手)此僅ニ有ルカ無キカニ奪去ラレテ居ル權利ノ實體ヲ、更ニ此法律ニ依ツテ、縱ンバ思想犯ニ關聯シタ一部ノ者デアアルニシロ、國民ガ奪去ラレルト云フコトニナリマスルナラバ、國民ノ權利ヲ確保シ、自由ヲ保障スル所ノ人々ハ、是ガ爲ニハ戒心ヲ用ヒナケレバナラナイト思フ、ダガスウ云フ點ニ對シテ、本法律ニ依ツテハ何等規定ガ設ケテアリマセヌ、斯ウ云フ點カラ見マスルナラバ、私ハ名ハ保護觀察デアルト雖モ、實質的ニハ監視取締ニ轉化セラレル虞レ多分ニアリ、現實ニハ權利ノ實體ヲ失ハシムルノ危險アル法律デアアルガ故ニ、斯ノ如キ法律ニ對シテハ、斷乎トシテ反對スル者デアルト云フコトヲ明白ニ此席ニ於テ述ベテ置ク者デアリマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 起立多數、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○松永東君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

思想犯保護觀察法案 第二讀會

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセヌ、仍テ委員長報告通り決シマシタ(拍手)是ニテ本案ノ第二讀會ヲ終リマシタ

○松永東君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第三讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

思想犯保護觀察法案 第三讀會

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリ

マセヌ、仍テ第二讀會議決ノ通り確定致シマシタ(拍手)

○松永東君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出、臺灣拓殖株式會社法案及ビ臺灣私設鐵道補助法中改正法律案ノ兩案ヲ一括議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、臺灣拓殖株式會社法案、臺灣私設鐵道補助法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長櫻井兵五郎君

臺灣拓殖株式會社法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

臺灣私設鐵道補助法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一臺灣拓殖株式會社法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月二十一日

委員長 櫻井兵五郎

衆議院議長富田幸次郎殿

(別紙)

(小字及一ハ委員會修正)

臺灣拓殖株式會社法案中左ノ通修正ス

第六條 臺灣拓殖株式會社ニ社長副社長

各一人、理事三人以上及監事二人以上

ヲ置キ其ノ職務、權限、任命選任ノ方法

及任期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

社長副社長及理事ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ

主務大臣ノ認可ヲ經テ臺灣總督之ヲ命ズ

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス

第十條 政府ハ臺灣拓殖株式會社ノ業務

ハ第一次ニ於テ臺灣總督之ヲ監督シ第二次

ヲ監督ス

ニ於テ主務大臣之ヲ監督ス

報告書

一臺灣私設鐵道補助法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決政候此段及報告候也

昭和十一年五月二十一日

委員長 櫻井兵五郎

衆議院議長富田幸次郎殿

(櫻井兵五郎君登壇)

○櫻井兵五郎君 只今議題トナリマシタ臺灣拓殖株式會社法案、臺灣私設鐵道補助法

中改正法律案、此二案ノ委員會ノ經過竝ニ

結果ニ付キマシテ御報告ヲ申上ゲマス、先ツ

第一ニ臺灣拓殖株式會社法案デアリマスガ、

此法案ハ案ノ示スガ如ク、三千万圓ノ資本

ヲ以テ、政府ガ其半額ヲ出資シ、半額ハ民

間ヨリ之ヲ出資セシメ、殘サレタル臺灣ノ

産業經濟上ノ開發竝ニ南支、南洋ニ對シマ

シテ經濟上ノ關係ヲ密接ニシ、是等ノ地方

ニ於ケル諸外國ト共存共榮ノ目的ノ下ニ、

相提携ヲ致シテ帝國ノ經濟發展ヲ圖ラウト

云フ、極メテ重大ナル南方對策ノ經綸ヲ藏

スル所ノ問題デアアルノデアリマス、隨テ委

員會ハ此法案ニ關シマシテ、殆ド全部ノ質

疑應答ガ向ケラレタヤウナ次第デ、前後四

回ニ互リ、總理大臣、拓務大臣、其他ノ政

府委員、竝ニ委員諸氏ノ間ニ於キマシテ、

極メテ熱心ニ質疑應答ガ重ネラレタ次第デ

アリマス、質疑ノ中ニ現レマシタル所ノ要

點ト致シマシテ、先ツ第一ニ大體此會社ノ

目的ハ宜シイト思フガ、併ナガラ此南支、

南洋ニ對スル所ノ計畫ト云フモノハ、餘程

慎重ニ致サナケレバ、過去ニ於ケル所ノ苦

キ經驗モアル、寧ロ何レカト言ヘバ、臺灣

島内ニ殘サレタル所ノ産業經濟上ノ開發ニ

重點ヲ置ク方ガ宜シイデハナイカ、斯様ナ意

見モ出タノデアリマス、之ニ對シマシテハ、

政府當局ハ固ヨリソレハ大切デアアル、又過去

ノ苦キ經驗モ固ヨリ是ハ深く考ヘナケレバ

ナラス、併ナガラ帝國内外ノ情勢ハ、現在

ニ於テ更ニソレヨリモ進シテ平和的ニ、人類

共存共榮ノ目的ノ爲ニ、更ニ積極的ニ進出

ヲシナケレバナラスト云フ意味ノ答辯ガア

リ、又委員多數ノ意向モ、ソレニ一致セラ

レタル所ノ質疑ガ多クカッタデアリマス、ソ

レガ第一點デアリマス、第二點ト致シマシ

テハ、特殊會社ハ元來其人ヲ得ナケレバ、

其目的ヲ達成セラレルモノデナイ、此會社

ハ三千万圓ヲ以テ出發ハ致スケレドモ、重

大ナル目的ヲ有シテ、將來大イニ之ヲ發展

セシメナケレバ、本案提出ノ目的ガ達成セ

ラレナイ譯デアアルガ、政府ガ或ハ何等カノ

都合トカ、或ハ情實因縁ニ依ツテ、其人選ヲ

ヤルガ如キ場合ガアツタナラバ、本案ノ目的

トスル所ハ失ハレルデアラウ、此點ハ非常

ニ政府トシテ注意ヲ拂ハナケレバナラスト

云フ、強イ意味ノ意見ガ述ベラレマシテ、

採決ニ入ッタヤウナ次第デアリマス、次ニ

質疑ノ第三點ト致シマシテハ、株式ノ割當

デアリマス、株式ノ割當ハ前申上ゲマシタ

通り、其約半額ハ臺灣總督府ニ持ッテ居リ

マスル所ノ官租地ヲ物資出資ヲ致スノデア

リマスルガ、其他ノ株式ノ募集ニ付テハ、

現在ノ社會的情勢ニ鑑ミ、弊害ノナイヤウ

ニ、極メテ公平ニ、或ハ政府ガ斯様々々ナ

依怙最良ナヤリ方ヲヤッタトカ何トカ云フ

ヤウナ、弊害ノ起ラナイヤウニト云フ意味

ニ於テ、強イ警告ガアツタノデアリマス、其

次ニハ更ニ今一點ト致シマシテ、是ガ中々

重大ナ問題トナッタノデアリマスルガ、社長

副社長、理事ノ任免權、本案ハ此任免權竝

ニ監督、及ビ業務ニ付キマシテハ、之ヲ勅

令ニ讓ッテ居ルノデアリマス、是ハ甚ダ惡例

デアアル、從來ノ特殊會社ノ例ニ見マシテモ、

社長ノ任命、社長以下ノ役員ノ任命、業務

竝ニ監督ハ法文ニ明記セラレルノガ例デア

ル、然ルニ此法案ニ限ツテ之ヲ勅令ニ委ネ

タト云フコトハ、現在此法案ニ色々ナ疑惑

ヲ起サシメルノミナラス、將來ニ對スル一

ツノ惡例デアアル、蓋シ此問題ガ重大化シマ

シタ爲ニ、後ニ申上ゲマスル所ノ修正案モ

出タ次第デアリマスルケレドモ、修正ヲ以

テシテハ其意味ヲ十分ニ盡スコトガ出來ナ

イト云フ御意味デアツタラウト思ヒマスル

ガ、政友會ノ川島理事ナドヨリハ、特ニ強

ク將來ニ向ツテ此惡例ヲ繰返サヌヤウニ、委

員長報告ノ場合ニ於テハ、政府ニ警告ヲセ

ヨト云フ御意見モ出タヤウナ次第デアリマ

ス、最後ニ至リマシテ討論ニ入りマシテ、

民政黨ノ眞鍋理事カラ一ツノ修正案ガ出タ

ノデアリマス、ソレハ本案ノ第六條ト第十

條トヲ修正ヲスルト云フ意見デアリマス、

其修正ノ意見ハ茲ニ朗讀ヲ致シマス

第六條ヲ左ノ如ク改ム

臺灣拓殖株式會社ニ社長副社長各一人、

理事三人以上及監事二人以上ヲ置キ其ノ

職務權限及任期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

社長副社長及理事ハ勅令ノ定ムル所ニ依

リ主務大臣ノ認可ヲ經テ臺灣總督之ヲ

命ズ

此主務大臣ノ認可ヲ經テ臺灣總督之ヲ命ズト云フノガ、修正ノ主眼ニナツテ居リマス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス

第十條ヲ左ノ如ク改ム

臺灣拓殖株式會社ノ業務ハ第一次ニ於テ臺灣總督之ヲ監督シ第二次ニ於テ主務大臣之ヲ監督ス

是ガ即チ修正ノ動議デアリマシテ、此動議ニ付テ採決ヲ致シマシタ所、滿場一致ヲ以テ此修正動議ハ成立ヲ致シタノデアリマス、續イテ案全部ニ付テ採決ヲ致シマシタ所、此修正ヲ含ミマシタル所ノ案ガ、全會一致ヲ以テ認メル所トナリ、可決確定ヲ致シマシタ次第デアリマス

次ニ今一ツ本委員會ニ委託セラレマシタ臺灣私設鐵道補助法中改正法律案、此案ハ臺北鐵道株式會社ノ經營スル臺北市ノ万華、新店庄新店間ノ私設鐵道、竝ニ臺中輕鐵株式會社ノ經營ニ係ル臺中州豐原、土牛貯木場間ノ私設鐵道、此二線ハ臺灣ニ於ケル私設鐵道デアリマシテ、從來政府ガ之ヲ補助ヲシテ參ツテ居ルノデアリマスルガ、既ニ補助期間ノ十五箇年ガ經過ヲ致シ、或ハ將ニ經過セントシテ居ル所ノモノデアアルノデアリマス、是ハ臺灣ノ産業經濟ノ上ヨリ此儘ニシテ置イテハ、私設鐵道ハ成立シテ行カナイ、ドウシテモ是ハ繼續セシメナケレバナラヌガ故ニ、五箇年以内ノ期限ニ於テ更

ニ其補助ヲ繼續スル、斯ウ云フコトガ案ノ内容デアリマシテ、之ニ對シマシテ一二ノ質疑ハアリマシタガ、結局討論採決ニ至リマシテ、ヤハリ全員一致ヲ以テ原案ヲ可決致シマシタ、右御報告ヲ申上ゲマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 先ヅ臺灣拓殖株式會社法案ヲ審議シ、次ニ臺灣私設鐵道補助法中改正法律案ノ審議ニ入ルコトト致シマス、是ヨリ臺灣拓殖株式會社法案ノ審議ニ入リマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○松永東君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス
○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

臺灣拓殖株式會社法案 第二讀會
○議長(富田幸次郎君) 採決致シマス、本案ノ委員會修正ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求めマス

〔贊成者起立〕

○議長(富田幸次郎君) 起立多數、仍テ委員會ノ修正ハ可決致シマシタ(拍手)

其他ハ原案ノ通り御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ其他ハ原案ノ通り決シマシタ、是ニテ本案ノ第二讀會ハ終了致シマシタ

○松永東君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス
○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第三讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

臺灣拓殖株式會社法案 第三讀會
○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセヌ、本案ハ第二讀會議決ノ通り確定致シマシタ(拍手) 次ニ臺灣私設鐵道補助法中改正法律案ノ審議ニ入リマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○松永東君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

臺灣私設鐵道補助法中改正法律案 第二讀會(確定議)
○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ(拍手)

○松永東君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際手代木隆吉君外八名提出、大正九年法律第五十六號中改正法律案、井阪豐光君提出、大正九年法律第五十六號中改正法律案、及ビ東武君外四名提出、大正九年法律第五十六號中改正法律案ノ三案ヲ一括議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求め、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ

マス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、大正九年法律第五十六號中改正法律案、大正九年法律第五十六號中改正法律案、大正九年法律第五十六號中改正法律案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス——委員長岡田伊太郎君

大正九年法律第五十六號中改正法律案 (北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件) (手代木隆吉君外八名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告) 大正九年法律第五十六號中改正法律案 (北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件) (井阪豐光君提出)

第一讀會ノ續(委員長報告) 大正九年法律第五十六號中改正法律案 (北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件) (東武君外四名提出)

報告書

大正九年法律第五十六號中改正法律案 (北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件) (手代木隆吉君外八名提出)

大正九年法律第五十六號中改正法律案 (北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件) (井阪豐光君提出)

大正九年法律第五十六號中改正法律案 (北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件) (東武君外四名提出)

右ハ本院ニ於テ三案ヲ併合シテ一案ト爲シ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也 昭和十一年五月二十一日

委員長 岡田伊太郎 衆議院議長富田幸次郎殿

(別紙)

大正九年法律第五十六號中左ノ通改正ス同法ニ左ノ一項ヲ加フ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ更ニ五年ヲ限り前項ノ期間ヲ延長スルコトヲ得但シ延長期間ニ對スル補助金ノ歩合ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前營業開始ノ日ヨリ十五年ヲ經過シタルモノニ付テハ營業開始ノ日ヨリ二十年ニ達スル迄本法施行ノ日ヲ含ム營業年度分ヨリ之ヲ適用ス

(岡田伊太郎君登壇)

○岡田伊太郎君 只今上程セラレマシタル大正九年法律第五十六號中改正法律案外二件ノ委員會ニ於ケル經過ト結果ヲ御報告致シマス、委員會ハ昨日委員長理事ノ互選ヲ行ヒマシテ、同時ニ會期モ切迫致シテ居ルコトデアリマスカラ、引續イテ會議ヲ開キ、提案者ノ説明ヲ聽キマシテ、政府當局ノ之ニ對スル答辯ヲ求メマシタ、斯クシテ當局ト質疑應答ヲ重ネマシテ、本日尙ホ引續キ會議ヲ開キマシテ質疑ヲ致シマシタ後、質疑ヲ打切リマシテ討論ニ入ルコトニ

ナリマシタ、元來此法案ハ北海道ニ於ケル拓殖進展ノ上ニ最モ重大ナル使命ヲ帶ビテ居リ、且又拓殖上ニ於ケル先驅デアアル交通運輸機關ノ使命ヲ持テ居ル鐵道ニ關スルモノデアリマシテ、是ハ民間ノ事業ト致シマシテハ、内地、臺灣、朝鮮邊リノ一般ノモノヨリハ、餘程經營困難ナ事情ニアルノデアリマス、隨テ之ヲ遂行セシメテ行クニハ、相當ノ助成ヲ致サネバナラスコトハ申スマデモナイノデアリマス、此助成ノ上ニ於キマシテ、年限ノ延長、即チ五箇年ヲ限ッテ延長シテ補助金ヲ與ヘル、斯ウ云フノガ此三法案ノ趣旨デアリマス、其審議ノ結果ト致シマシテ、極メテ簡單ニ申上ゲマスルガ、各派ハ十分ニ協議ヲ重ネマシテ、協議ノ結果ハ三案ヲ併合シテ一案トシ修正ヲ致シマシタ、其修正ハ是等三法案ノ但書ニ關スルモノデアリマシテ、修正サレマシタル個所ハ、即チ「但シ延長期間ニ對スル補助金ノ歩合ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト云フノデアリマス、即チ此但書ヲ原案ノ「政府ハ必要アリト認ムル時ハ更ニ五年ヲ限り前項ノ期間ヲ延長スルコトヲ得」斯ウ云フ文句ノ下ニ加ヘタノデアリマス、而シテ之ニ對シマシテ政府當局モ大體ニ於テ、此趣意ヲ諒承セラレタノデアリマス、委細ハ速記ニ依ッテ御諒承願ヒマス、此段御報告ヲ致シマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、議決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

大正九年法律第五十六號中改正法律案 (北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件) 第二讀會(確定議)

大正九年法律第五十六號中改正法律案 (北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件) 第二讀會(確定議)

大正九年法律第五十六號中改正法律案 (北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件) 第二讀會(確定議)

大正九年法律第五十六號中改正法律案 (北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件) 第二讀會(確定議)

大正九年法律第五十六號中改正法律案 (北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件) 第二讀會(確定議)

大正九年法律第五十六號中改正法律案 (北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件) 第二讀會(確定議)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告

通リ確定致シマシタ(拍手)

○松永東君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、明二十
二日ハ定刻ヨリ特ニ本會議ヲ開クコトトナ
シ、本日ハ是ニテ散會セラレンコトヲ望ミ
マス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ
議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日
ハ是ニテ散會致シマス

午後三時四十分散會

衆議院議事速記録第十一號中
正誤

頁	段	行	誤	正
二八八	二	一五	官廳	館長
二八八	二	二一	引上ゲ	引下ゲ
三〇九	四	一九	騰ラヌ	下ラヌ
三一〇	一	八	經濟	救濟

